

バレーボールに関する文献研究〔I〕

鎌 田 英 爾

〔I〕 バレーボールの歴史

今日、野球と共に、日本の代表的なスポーツの一種目として発展し、親しまれているバレーボールは、1896年アメリカ・マサチューセッツ州ホリヨークのYMCA体育主事、ウィリアム・G・モルガンにより、老若男女が楽しめるスポーツとして、考案されたものである。その後YMCAを通じてまたたくまに全米に広がったバレーボールは、やがて欧州に渡り、初めは地中海沿岸の諸国に広まっていったが、やがてソ連を中心とする共産圏を中心にして発展し、6人制バレーボールが盛んに行われていった。

一方、日本に伝えられたのは、1913年（大正2年）に、F. H. ブラウンによってと云われており、当時のバレーボールは16人制であったが、その後改良が重ねられてやがて9人制バレーボールが出来上り、極東を中心に普及し、発展していった。

第二次大戦後、1951年（昭和26年）に国際バレーボール連盟に加盟した日本は、1955年（昭和30年）の第1回アジア大会を契機として、6人制ルールに取り組みはじめ、1959年（昭和34年）には、日本でも正式に採用されて今日に至っている。

その後1964年（昭和39年）の第18回東京オリンピックにおいて、日本の女子チームが優勝（男子は3位）したことから、戦前にもましてバレーボールが盛んになって来ている。しかしその一方では、依然として日本独得の9人制バレーボールが、一部の実業団、家庭婦人などによって、今も尚盛んに行われているのが現状である。

日本にバレーボールが紹介されてから現在までの約70年の間には、16人制バレーボールから9人制、更には6人制への移行及び、数回にわたる大小のルール改正（1965年ブロックのオーバーネット可、1977年ブロックのワンタッチをカウントしないなど）が行われた。日本のバレーボール界は、とまどいながらも懸命な研究と努力を重ねてその難関を克服し、世界のトップレベルを保ってきていると云えよう。

〔II〕 研究の目的

スポーツとは、本来仕事から解放されて、何かを楽しむことであるが、現代のス

ーツは文化的遺産としての価値があり、人間の持つ能力を最大限に発揮する為の活動であるといえる。

過去において、スポーツ全般はもとより、バレーボールにおいても、その研究や指導は、各指導者の経験と直観によって行われてきたといえるが、その技術が高度化するに従って、より科学的な方法による法則性を基礎とした技術の研究が行われ、一層発展していかなければならない。その為には、バレーボールの研究の足跡を調査することは、充分意義のあることで、今後の研究の為の一資料を提供するものといえよう。

そこで、これまでの文献を収集し、調査することによって、バレーボールの歴史的流れを探り、その中から今後の一層の飛躍の為の何かが得られればと考えた次第である。

すでに、体育学会においては、1975年にそれ迄の25年間における、各専門分野別研究についての検討が「その成果と課題」と題して発表がなされており、1968年には天理大学の花田氏¹⁾によって、これらの研究の一部がなされているが、ここでは日本体育学会が30年目を迎えたことでもあるので、これを一つの区切りとし、これ迄発表されたバレーボールに関する論文を集録して分析し、今後の科学研究の方向を見出そうとするものである。

〔Ⅲ〕 研究の方法

(1) 調査の範囲

第1回(1950年、昭和25年)～第30回(1979年・昭和54年)の日本体育学会において発表された一般研究発表及び専門分科会シンポジウムのうち、バレーボールに関連した研究発表の抄録

尚、単行本、定期刊行物など、日本体育学会以外の研究物については、本調査からはずし、次の機会に調査する予定である。

(2) 調査の期間

昭和51年9月～昭和54年10月

(3) 資料整理の方法

資料の整理は、過去30年間に日本体育学会に於いて発表された、バレーボールに関する研究をコピーにとり、更に各論文を夫々一枚のカードに、表題、発表年度、発表者、所属、共同研究者数、研究内容、研究方法その他について記入し、分類できるようにした。

(4) 資料の分析

バレーボールに関する文献研究〔I〕

1) バレーボールに関する研究内容による分類

分類の項目は、バレーボールの技術に関する項目や、関連した項目を中心に作成した。

バレーボールに関する研究内容の分類項目

- (1) パス・トス（パスフォーム、トス・パスの分析など）
- (2) サーブ（スピード、フォーム、球質と回転など）
- (3) スパイク（フォームの分析、打点、スピード、筋電図など）
- (4) ブロック（効果、ルールとの関連など）
- (5) ジャンプ（垂直跳、技術とジャンプ、助走ジャンプの分析など）
- (6) レシーブ（サーブレシーブ、スパイクレシーブなど）
- (7) 指導法（学校体育、クラブ活動など）
- (8) ゲーム分析（作戦、失点と得点との関連、ゲーム構造、心理的特質など）
- (9) 体育社会（社会体育、学校体育、凝集性、集団の構造など）
- (10) 体育心理（性格、スポーツマンの適性、心身相関など）
- (11) 体育生理（心肺機能、反応時間、疲労など）
- (12) 保健・衛生（傷害、栄養、疾病、精神衛生など）
- (13) 体格（体型、形態、姿勢など）
- (14) 体力（運動能力、筋力など）
- (15) 体格・体力（体型と体力の関連、技術との相関など）
- (16) 合宿（疲労、血液性状、コンディションなど）
- (17) スキルテスト（評価、試作、記録法など）
- (18) ルール（変遷、ルールと技術など）
- (19) 審判（疲労、資質、心理的特性、態度など）
- (20) 施設・用具（改良、考案など）
- (21) その他（歴史、文献、知識など）

2) 専門分野別研究内容による分類項目

分類の項目については、最近数年間にわたり、日本体育学会に於いて使用されている分類方法をもとにし、一部に谷村氏（東京理科大）²⁾ の分類方法を参考にして作成した。

専門分野別研究内容の分類項目

- ① 体育原理（技術論、球技論など）
- ② 体育史（発生、変遷など）
- ③ 体育社会（社会体育、スポーツ教室、集団の構造、凝集性、行動特性、交友

関係、運動意欲、生活実態、レクリエーション、マスコミ、モラル、態度、関心など)

- ④ 体育心理 (性格、人間関係、動機づけ、あがりなど)
- ⑤ 体育生理 (呼吸循環機能、 O_2 摂取量、 O_2 負債量、心拍数、血圧、血液性状、反応時間、皮脂厚、比重、足跡、疲労、X線的研究など)
- ⑥ バイオメカニク (運動動作フォームなどの分析、仕事率、重心、タイミング、バランスなど)
- ⑦ 体育管理 (施設用具の管理、ルールなど)
- ⑧ 発育発達 (体格・体型、骨格、姿勢、身長、体重、上下肢長、利手利足など)
- ⑨ 検査・測定評価 (各種テスト、スキルテスト、運動能力、運動機能、学習評価など)
- ⑩ 体育方法・指導 (指導法、集団指導、運動選手、審判、記録成績の分析、ゲーム分析、練習方法、タイムスタディ、学校体育など)
- ⑪ 保健・衛生 (傷害、傷害の予防、安全、栄養、自覚疲労、精神衛生など)
- ⑫ 体力・運動能力 (筋力、跳躍力、トレーニング、体力と運動能力の相関など)

3) 研究方法の分類

研究がどのような手法によって行われているかについての分類で、主として花田氏¹³³⁾らによる分類法を参考にして作成した。

研究方法による分類項目

- 調査方法による研究
 - (a) 文献・歴史
 - (b) 記録分析
 - (c) 質問紙法
- 検査・測定方法による研究
 - (d) 形態機能
 - (e) テスト法
- 観察方法による研究
 - (f) 面接
 - (g) 行動観察
- 実験的方法による研究
 - (h) 生理学

バレーボールに関する文献研究〔Ⅰ〕

- (i) 心理学
- (j) バイオメカニク
- (k) 論説・記述方法による研究
- (l) その他の方法による研究

〔Ⅳ〕 結果とその考察

(Ⅳ-1) 年度別研究発表数（第1図、第1表）

(1) 研究発表総数

第1回に51件から出発した発表総数は、年々増加をつづけて第12回には400件を突破した。その後数年間は一進一退をつづけていたが、第17回に500件を越してから、一気に752件に到達しピークを作る。しかし第22回からはやや減少して、500～650件の間で推移しながら第30回に至っている。

第11回迄は発展期、第12回～第16回を第一次停滞期、第18回～第21回を最盛期、第22回以降現在迄を第2次停滞期と見ることが出来るが、最盛期に対する第22回以降の発表件数の減少は、停滞期というよりは、玉石混合の時期から、研究内容の質的向上に起因するものと見るのが妥当であると思われる。

又研究発表数を、5年区切りにして表にしたものが下の表である。

期	I	II	III	IV	V	VI
大 会	1～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～30
研 究 発 表 数	661	1,359	1,836	3,116	3,012	2,989
総数に対する%	5.1	10.5	14.2	24.0	23.2	23.0
増 加 率 指 数	100	206	278	471	455	451

これを見ると、I期からIV期迄はハイペースの増加を示しているが、IV期からVI期迄は殆んど変化が見られず、平均した発表数を示しているといえる。

(2) バレーボールに関連した研究発表数

第1回から第6回迄の発表件数は10件にも満たなかったが、第7回に10件を突破してから、およそ15～25件の間を上下しており、第14回には38件とピークを示している。

研究発表総数(1)に対する比率は全体として、3.9%であるが、第1回の15.7%を除いては、10%をオーバーした事がなく、第14回に9%を示した後は年度別においても、5年毎の期別においてもおよそ4%前後を上下している。

(3) 主としてバレーボールを扱った研究発表数

第1回の0を含めて初期は件数が少なかったが、第9回に至りやっと10件を越してからは、10～15件の間を上下しており、第28回には22件とピークを示した。

バレーボールに関連した研究発表数(2)に対する比率で見ると、全体としては54.7%であるが、第Ⅲ期迄は平均40%と低く、Ⅳ期以降は平均65%と高い比率を示している。

これは、バレーボールに関連した研究といっても、初期の研究はバレー部を含むいくつかの運動部選手について、単純に表面的な比較をしたものが多かったのに対し、最近ではバレーボールのみをとり上げて、各分野からのつっこんだ研究が増加して来ていることを示していると考えられる。

(Ⅳ-2) 研究内容・方法の年度別傾向 (第2表)

(二つの項目にわたる研究がある為に総数は増加している)

(1) バレーボールに関連した研究内容の傾向

項目別に見ると、最も多いのは、バレーボールを体育社会学的に研究したもので、88件(15.6%)である。次いで多いのは、体育心理(57件—10.1%)、ゲーム分析(55件—9.8%)、体力に関する研究(50件—8.9%)、指導法(49件—8.7%)などである。

バレーボールの個々の技術に関連した研究は、あまり多くはない(15.2%)が、スパイクとジャンプについてはⅢ期から、パスとサーブについてはⅣ期から、レシーブについてはⅥ期に研究が目立つ。

Ⅳ期以後は、個々の技術の分析と並行してゲーム分析又はゲームの流れの中での個々の技術(特にブロック、レシーブなど)が注目されて来っており、個々の技術分析はどちらかというとな減少の傾向にある。

(2) 専門分野による研究内容の傾向 (第3表)

最も多いのが体育方法(指導)に関する分野で、108件(21.1%)を数え、次いで多いのは、体育社会(70件—13.7%)、体育心理(65件—12.7%)、体力・運動能力(57件—11.1%)、体育生理(52件—10.2%)などである。

逆に非常に少ない分野は、体育原理、体育史などである。

又1つの年度で10件を越しているのは、第14回の体育心理と、第28回の体育方法(指導)だけである。又体育方法(指導)や体育社会は、増加の傾向にあり、検査・測定評価や発育発達は減少の傾向が見られる。

(3) 研究方法の傾向 (第4表)

小項目別に見ると、形態機能に関するものが最も多く、(125件—23.4%)次いで質

問紙法（123件—23.0%）がこれに続いており、断然他を引離している。

年度別では、単年度1項目で10件を越しているのは、質問紙法の第30回（12件）、形態機能の第14回（12件）、テスト法の第14回（11件）である。

又質問紙法と形態機能法は第7回以降は毎年度かなり多くの研究に使用されており、記録の分析は増加の傾向を示している。生理学的方法や、バイオメカニックの方法も、バラつきはあるが、多く使用されている方法といえよう。

これに反して、文献・歴史的調査方法、面接法、心理学的方法、論説・記述法などは、かなり少ない。面接法については、研究内容を詳細に検討してみると、かなり使用されているが、単独での使用は殆んど見られないということであり、心理学的方法は、その内容は心理ラストの方法を利用した研究が多い為、検査測定テスト法に分類されたものが多く、心理学の実験方法としての研究は非常に少い。

（IV-3） 研究内容と研究方法の比較

（1） バレーに関する研究と専門分野別研究との比較（第5表）

個々のバレーボール技術に関する研究には、パス（トス）、サーブ、スパイク・ブロック、ジャンプ、レシーブ（スパイクのレシーブ、サーブレシーブ）などが見られるが、全体として、バイオメカニックに関する研究が多く（37件）、ついで体育方法（指導）に関する研究が続いているが、ジャンプに関する研究だけは、体力・運動能力、検査・測定評価、バイオメカニックに分散しているのが見られる。

これらを合わせると、77件—13.5%となるが、指導法、ゲーム（分析）の中にも、かなり個々の技術に関するものが含まれているので、これらも合わせると、181件—31.9%が、直接バレー技術に関する研究と見ることが出来る。

体格（体型）、体力（運動能力）などに関する研究もやはり多いものの一つで、合計で112件—20.6%に及んでいる。

（2） 主としてバレーボールを扱った研究と専門分野別研究の比較（第6表）

前述の（1）の資料と同様の傾向が見られるが、主としてバレーボールを扱った研究ということから、当然の事ながら、個々の技術に関する研究が、79件—21.8%、指導法・ゲーム分析に関する研究が28.8%、と増加し、この両者を合計すると、50%をちょっとオーバーしている。それに対して、体格・体力に関する研究は約半数に減少していることが分る。

（3） バレーボールに関する研究と研究方法との比較（第7表）

小項目別に見ると、バレーボールの技術に関する研究では、バイオメカニックの方

法による研究が多いが、ジャンプについては、形態機能的方法、レシーブについては行動観察的方法が多く用いられている。

指導法については質問紙法、ゲーム分析に関しては記録の分析法が多く見られる
 体育社会については質問紙法、体育心理についてはテスト法と質問紙法、体育生理については生理学的方法が多く見られる。

保健・衛生については質問紙法、体格・体力に関しては形態機能法が多く見られ、合宿については生理学的方法が、ルールに関しては論説記述法が多く用いられている。

全体として目立つものは、質問紙法による体育社会、生理学的方法による体育生理、形態機能法による体格・体力、テスト法による体育心理などである。

これを研究方法別にまとめてみると、調査方法による研究が最も多く（195件—33.5%）、ついで検査・測定（182件—31.3%）が多い。又実験的方法も（123件—21.1%）とかなりの件数が見られるのが特徴である。

調査方法では、体育社会、ゲーム分析が多く、検査・測定では、体格・体力に関する研究及びテスト法が、観察法では指導法（学校体育）が、実験的方法では、体育生理及びスパイクの研究が多いのが特徴である。

(4) 専門分野別研究方法と研究内容との比較（第8表）

研究方法から見ると、調査方法では体育社会（62件）、体育方法（49件）、検査・測定方法では体力・運動能力（50件）、体育心理（39件）観察方法では体育方法・指導（25件）、実験的方法では体育生理（46件）、バイオメカニク（41件）、論説・記述方法では、体育方法（17件）などの関連性が強く見られる。（下表参照）

小項目別に見ると、体育社会の質問紙法（56件）、体力・運動能力の形態機能法（50件）、体育生理学に関する研究内容と方法（44件）、バイオメカニクによる研究方法

		調 査	検・測	観 察	実 験	論・記	その他
1	体 育 原 理	1	—	—	—	—	1
2	体 育 史	2	—	—	—	1	—
3	体 育 社 会	62	1	6	—	2	2
4	体 育 心 理	21	39	6	4	1	1
5	体 育 生 理	2	7	1	46	—	—
6	バイオメカニク	1	1	1	41	1	—
7	体 育 管 理	18	2	1	1	—	1
8	発 育 発 達	7	26	—	7	—	—
9	検 査・測 定 評 価	3	30	—	3	—	—
10	体 育 方 法・指 導	49	13	25	4	17	4
11	保 健・衛 生	10	1	—	2	—	1
12	体 力・運 動 能 力	2	50	—	6	—	—

と内容（39件）、体育心理のテスト法（37件）、よる研究が最も多く見られる。

〔V〕 バレーボールに関する研究の傾向と考察

（1）パス・トス

- バイオメカニクと体育方法に研究が集中しており、その内容としては、バイオメカニクではフィルムによるパスフォームの解析が多い。中でもセッターのパスの分析（川合武司一順天堂大）、重量の異ったボールを使ったパスの分析（南川和世一日体大）が目立つ研究といえる。

又体育方法では、パス指導の為の分析、スキル作成の為の研究などが多く見られる。

- 全体として、パスフォームの解析、パス指導の為の角度を変えた、バイオメカニクに関する研究内容及び研究方法が多い。
- パスは最初に学ぶもっとも基本的な技術でありながら、もっとも難しい技術であると云われている。例えば、ボールの回転とパスとの関係、ボールと手や指の接触部分の問題、腕の角度や速度などについて、現在は多くの指導者の経験にもとづいて指導されているが、これらの問題が、科学的・力学的な裏づけのもとに、統一された理論でということになると、今後の研究にまたなければならない。又セッターのトスや動き、資質などについての研究も更に必要であろう。

（2）サーブ

- パスと同様に、バイオメカニクと体育方法に研究が集中しており、前者では、サーブされたボールの回転と軌跡の研究、サーブのフォームと筋電図の研究などであり、後者は、サーブやサーブポイントとゲームとの関連についての研究などが見られる。その中で、テニスとバレーのサーブを対比させた研究（三浦睦夫一芝浦工大）や、サーブによる手の腫張の研究（生田豊一徳島大）などが、変った方向の研究と云える。
- 全体として、手の腫張、サーブのフォームとボールの回転などの研究などが多く、他にサーブ、サーブポイント、サーブレシーブとゲームとの関連についての研究が、第23回から少しずつ発表され始めている。
- 今後の方向としては、サーブのスピードと回転（変化）との関係、サーブの飛距離との関係、サーブレシーブとスパイクのレシーブボールの回転の違い、回転ボールと、無回転ボールの反発力など、経験的に知られている理論の、科学的な裏づけと実戦の為の指導理論などの研究が必要と思われる。又これからは同一人が同一フ

フォームから球質の異なるサーブを打てることも要求されてこよう。

(3) スパイク

- スパイクに関しては、1件をのぞいて全てバイオメカニクの研究である。その内容としては、スパイクの球速に関する研究が3件の他は殆んどスパイク・フォームに関する研究である。その中で、スパイクのフォームに関する、フィルムによる解析（山本隆久一大阪体育大）が継続した研究として特に目立っている。
- 今後の方向としては、スパイカーの目の動き、バックアタック（バックプレイヤーのスパイク）の解析、ライトスパイクとレフトスパイクとの相違点・特異点など、スパイクそのものに関する研究と同時に、最近のブロックルール改正に伴う、スパイクとブロックとの関係や、ブロックを利用した打法などの研究が望まれる。又スパイカーには今迄以上に高度で複雑な資質・能力（例えばバックアタックなど）が要求されてこよう。

(4) ブロック

- 研究例が3件と少なく、しかも最近の研究が多い。ブロックに関するルール改正が2年前に行われたことから、これから研究が増加していく分野と考えられる。
- 今後の方向としては、ブロックのフォームやタイミング、セッターとの関連や、ゲームにおけるブロックの効果とウエイトなどの研究が望まれる。

(5) ジャンプ

- ジャンプについては、他のスポーツ種目と共通する部分が多く、例えば日本体育学会において、跳力に関する研究は、過去30年間の間にざっと120件以上にも達する。バレーボールに関連したジャンプの研究も比較的多く（24件）その内容はサージェントジャンプ又は助走ジャンプと、体格・体力・技術との比較・相関を求めたものが多い。
- 研究の内容としては、体力・運動能力・体育方法・検査・測定などに多く、研究方法としては、形態機能法、バイオメカニクの方法が多く使われている。
- ジャンプ力をバレーボールと他種目（バスケットその他）と比較した研究を含めて、ジャンプ力そのものについての研究が多く、体格・体力・脚筋力、脚の角度、滞空時間、ジャンプの持久性などとの関連において研究がなされている。
- 今後の研究の方向としては、例えばキューバのバレーボール選手の様な、すばらしいジャンプ力と、民族性・生活環境との関連の研究や、日本人が更にジャンプ力を伸ばす為の理論やトレーニング法、その可能性などについての研究が必要であろうと思われる。

(6) レシーブ

- 体育方法による研究と、行動観察法による研究が多いが、研究数は少なく、しかも殆んどがこの5年間に行われた研究である。

研究の内容は、アンダーハンドのレシーブ、スパイクのレシーブ、サーブレシーブなどに分れている。

- 今後の課題としては、伸びるサーブと落ちるサーブなどの見分け方、レシーブしたボールの回転の問題、より速いサーブでより変化するサーブに関する研究などが考えられる。スパイクのレシーブについては、一流男子のスパイクしたボールがレシーバーに到達する迄の時間は約0.3秒で、人間の全身反応時間と殆んど差がないことから、レシーブの適正なポジションと、スパイクに対する「よみ」の研究がもっと出て来て欲しい。又サーブレシーブについてはレシーバーの適正なポジションや人数との関係に関する研究なども出て来て欲しい。

(7) 指導法・学校体育

- 体育方法（指導）に関する研究が最も多く（37件）、しかも初級指導法及び体育実技（授業）に関連した研究が多い。その内容としては、体育の指導過程、効果などの研究、グループ学習での指導法について、凝集性や習熟度など様々な角度からの比較研究、指導法の系統や問題点を対象とした記述的研究などが多く見られ、研究対象としては圧倒的に中学生が多い、
- 目立つ研究者としては、荒木豊（山梨大）の系統性の研究、西村清己（広島大）、松浦潔、船戸正美（岐阜長良中学）、岡崎助一（倉敷中央高）らの指導に関する研究などである。又研究方法としては、行動観察法、質問紙法が多く、記述的方法、形態機能的方法も見られる。
- 体育方法以外の研究については、バレーボールを主にした研究とその他が半々位であるが、その中には見るべき研究は少なく、バレーを主にした研究では、正課体育の授業でのチームの凝集性の研究が多い。
- 今後の課題としては、ありきたりな表現だが、小、中、高、大などの各階層別に正課体育での効果的な技術指導法、チームの凝集性の持っていく方、体育の現場と密着した研究、クラブ活動における効果的、系統的な指導法、社会人や、家庭婦人バレーなどの指導についての研究が望まれる。

(8) ゲームの分析

- 体育方法に関連した研究内容が殆んどを占めている。その内容としては、ゲーム分析の為の記録法の理論や試案が第16回（40年）から見られ、10件を越している。

中でも深瀬吉邦（中央大）の「マルコフ過程の理論」は特異な研究といえよう。その他ゲーム中のバレー技術や得点についての分析研究（15件）、学校体育でのバレーゲームの分析又はクラブ員との比較（5件）、9人制と6人制のゲーム内容の比較（4件）、ルール改正によるゲーム内容の変化についてなどが見られる。

又継続的研究者としては、前述の深瀬の他に柏森康雄（大阪体育大）、福原裕三（筑波大）、土谷秀雄（大阪市立大）、松田生米夫（山口大）などがあげられる。

- 体育方法以外の研究については、ゲームや各種のバレー動作のエネルギー需要量測定や、タイムスタディなどの生理学的研究、ゲームの勝敗への意識などの心理的影響についての心理学的研究が数件ずつ見られる。
- 全体として第10回迄は生理学的研究が見られたが、その後は簡単なゲーム分析の研究が現われ、第16回からは、ゲームを理論的に分析する研究が出現し、情報理論的な戦術研究や、ゲームの記録方法の試案がいくつか発表されて来ている。

研究方法としては、記録分析法が約半数をしめている。

- 今後の方向としては、ゲームが個々のバレー技術の集合体であるとする見地から、ゲームにおける独特な起伏や流れを重視し、その中に個々のバレー技術が散在していると考え、ゲームの流れを効果的に記録したり分析することが、理論的に裏付けされて研究が進められていくものと思われる。

(9) 体育社会（社会体育）的研究。

- この項は88件と最も件数が多いので、バレーボールを主として扱った研究と、そうでないものに分けて考察を行なう。
- バレーボールを（研究の一部として）扱った研究には、体育社会的研究が殆んど他に体育管理的研究（12件）、体育心理的研究、体育方法的研究がそれぞれ数件見られる。その内容としては、各種のスポーツ集団について、その興味や関心などについての研究（20件）、学校や一般社会人のスポーツクラブについての活動内容や実状調査（14件）、種々の性格検査と、興味・好み・関心などについての研究（7件）、指導者から見たクラブ活動、学生から見た指導者像などの研究（7件）、などがその主なものである。

又研究方法としては、圧倒的に質問紙法が中心である。

- バレーボールを主とした研究は、やはり質問紙法による体育社会的研究内容が中心であるが、その内容は、ママさんバレーを対象とした現状調査と問題点の研究が、第20回から現われ12件と多くを数える。それ迄は、バレー部員などの人間関係に関連した研究が殆んどであり、これは第20回以上後にも数件見られる。

バレーボールに関する文献研究〔I〕

- 今後の方向としては、ゲーム分析の場合と同様に、チームとして必要なものは、バレーボールの個々の技術の他に、成員のコミュニケーションのあり方、持っていてい
き方、育て方、などであることから、各階層夫々についての特性をふまえた研究の
積み重ねが更に必要であると思われる。

(10) 体育心理的研究

- 全体として、これまでの傾向は体育心理的分野の研究内容が殆んどで、研究方法
としてはテスト法が多く、質問紙法がこれに次いでいる。年度別には、第14回に12
件と多くの発表が見られた他は多くても4～5件である。
- バレーボールを（研究の一部に）扱った研究では、バレーボールを含めたいくつ
かのスポーツ集団の性格検査を行なって、類型化や適性に関する比較研究をしたも
のが殆んどである。その検査法としては、Y-G検査が最も多く使用されており、
その他ロールシャッハ、MMP I、内田クレペリン、クレッチマー、各種の気質検
査などが使われている。
- バレーボールを主として扱った研究では、第10回迄は行動観察と質問紙法による
研究方法が多かったが、第12回からは各種のテスト法が中心になって来ている。
テスト法としては、Y-G、内田クレペリン、及びこれらの併用が多く、他にM
MPIも少し使われている。又バレーボールの技術と体格・体力との比較研究が多く、
成員の受け入れ方、ゲームへの心理的影響などについての研究も1～2件見られる。
- 今後の方向としては、性格検査だけでなく、体育社会、指導法、ゲーム分析など
についての総合的な研究や、実験心理学的的方法による研究もしくは生理学的な心理
学に関する研究などが必要になるものと思われる。

(11) 体育生理学的研究

- これ迄の傾向としては、生理学的研究内容及び方法によるものが殆んどで、バレー
ボールを主として扱った研究とその他は約半数ずつであるが、両者の違いはあまり
見られない。
- 研究の内容としては、ゲーム、合宿、トレーニングにおける疲労（尿蛋白、ドナ
ジオ、フリッカー、血液性状など）の研究、バレーボールその他の運動選手の心肺
機能（ $\dot{V}O_2\max$ 、心拍数、血圧、肺活量、心臓陰影など）についての比較研究、バ
レーボールの個々の技術について、心拍数などからエネルギー量やR.M.R.を求
め、ゲームのタイムスタディを記録して、ゲームや授業での運動量の測定、反応時
間や足蹴の変化と比較などについての研究が見られる。
- スポーツは疲労に逆らって行われる活動といえるが、ハードトレーニングと「し

ごき」は紙一重である。今後は科学的研究やデータに裏付けされたトレーニングによって、人間の持つ能力の限界への挑戦が、安全にしかも果敢に行われていかなければならない。

(12) 保健・衛生

- バレーボールをとり上げた研究は3件と非常に少なく、各種運動部の傷害調査や、健康の実態調査などが研究されている。

バレーボールを主とした研究には、選手の背椎、頸椎の異常や腰痛の研究が見られる。

- 体育生理の項でも述べた様に、バレーボールのゲーム、合宿、トレーニングにおける、健康管理、傷害の予防、栄養とカロリーなどの研究が更に必要と思われる。

(13) 体格

- 発育発達に関する研究内容、形態機能による研究方法が多い。その内容は各種集団の体格測定に関する研究が最も多い。その中で目につく研究は、国体選手や五輪選手の統計的研究、手関節機能の研究、重心や皮脂厚の測定、体格因子の相関と解析などである。

バレーボール選手に関する研究発表は6件と少なく、特色はあまり見られない。

(14) 体力

- 選手の筋力や運動能力を測定し、種目別、類型化についての研究や、新入生の体力測定の統計的処理が多い。

体力の各項目についての測定は多いが、それらの相関や全身持久性などについての研究は少ないといえる。

- バレーボールについての研究は、16件あるが、その内容は、バレーボールの技術と体力との相関に関する研究、体力と性格の関連の分析、トレーニング効果の測定などが見られる。又バレーボールの技術と体力を得点に換算して総合的に評価しようとする試みは、比較的新しい研究方法といえよう。

(15) 体格・体力

- 全体としてはバレーボールその他のクラブの選手について、体格・体力の現状を測定し、又は相関を求める研究が多く見られる。
- バレーボールに関する研究としては、やはり実状の測定や相関を求めたものが多く、ジャンプ力やスパイクなどのバレーボール技術と結びつけた研究は少ない。

しかしその中でバレーボール選手の体格・体力、バレーボールの技術・精神力などを得点化し、総合評価した研究(島津大宣—日本女大)は特色あるものといえよう。

(13, 14, 15) 体格・体力

- 以上の3項目は、お互いに密接に関連しているので、まとめて考察を行なう。
- 全体として見ると、毎回数件ずつ発表が行われており、第12回、第14回には10件をこす発表が見られる。

研究の専門分野としては、発育発達、測定評価、体力・運動能力に集中しており、研究方法としては形態機能の方法が主で、記録の分析もわずかに見られる。

- 研究の中味は、形態機能の測定と基準化、相関などに片寄っているといえる。その対象としては、運動部、新入生、国体や五輪の選手などが多い。
- 117件の研究のうち、バレーボールを主として扱った研究は35件しかなく、形態機能の測定が中心で、バレーボールの技術、性格と比較・検討した研究は少ない。
- 今後の課題としては、単なる項目別測定だけではなく、もっと総合的に1人の人間又はチーム全体の能力を、分析・検討し、評価してゲームに役立てゝいく事が必要で、その意味では、島津らの点数化による総合評価は1つの新しい試みといえよう。

(16) 合宿

- 発表件数は多くないが、その殆んどは、生理学的、保健衛生的研究で、合宿と選手の疲労との関係についてである。

疲労の中味としては、血液性状、フリッカー、心肺機能、血圧、体力、自覚症状などが、測定され研究されている。

- 今後の課題としては、合宿における心理状態の変化や、体力や性格を加味したトレーニングの処方などの研究、又疲労の研究についても、対象別（中高大、社会人、男女）に多くの研究例を積み重ね、系統的に研究していくことが必要であろう。

(17) スキルテスト・評価

- バレーボールに限らず、スキルテストに関する文献は古くからあり、第20回大会には、国内外の文献によるスキルテストの傾向が発表されているが、現在でも尚研究されている問題といえる。又この数年、ゲーム内容を検討し評価する方法の一つとしてゲーム内容の記録法の研究が行われはじめています。
- バレーボールに関する研究発表は少ないが、その内容としては、スキルテストの考案と検討が殆んどである。（ゲームに関する評価、分析は「ゲーム分析」に分類されている）
- 今後は、個々のスキルテストについては、どちらかという、学校体育の中での指導や評価の為には必要ではあろうが、クラブ活動としては、ゲームの流れの中でスキルを評価していくことがより必要で、ゲーム分析と密接なつながりを持つ中で

研究が進められていかななくてはならない。

(18) ルール

- ルールに関する研究は、9人制から6人制に改正された事による研究が殆んどで、体育方法的研究により、論說的方法が多くとられている。
- その後2度にわたって行われた、ブロックを中心とする大改正（1965年、1977年）によるゲーム内容や技術、戦術の変容については、ゲーム分析と密接に関連している為、この項としての研究は少なくなっている。
- 今後は、日本人にとって不利であるといわれているルール改正によって、ゲームがどの様に変化し、日本人としてはルール改正をどの様にのりこえ克服していかなければならないか、などについて綿密なゲーム分析のもとに研究をしていかなければならない。その結果によってはバレーボールのより発展の為に、新しいルールを提案していくことも必要であろう。

(19) 審判（員）

- 研究の内容は、研究件数が非常に少ないが審判員の疲労の測定、及び審判員の実態についての研究が見られる。
- 一試合が3時間にも及ぶ今日のゲームで、審判員に要求される体力、スタミナ、注意力の集中度や、一つの試合の中で心理的、生理的にどの様な変化や起伏があるものか、又審判員と性格との関係などの研究が、望まれる。

例えば、現在では資格認定の為のテストが行われているが、一般には一定の競技経験があれば審判を勤めることが出来る場合が多いようである。しかし、本質的には審判員に要求される性格、資質、能力、体力、などが、ないのだろうかなどの疑問は、まだ明らかにされているとはいえない。

(20) 施設・用具

- 殆んど研究がなく、練習の補助用具としての投球板の研究と、小学校での適正なコートの広さ、ネットの高さについての研究がされているだけである。
- 現在、小学校から社会人迄の間に、コート、ネットの高さについていくつかの段階が、経験的に規定されているが、これらはその時代の対象者の身長や体力などとの関係を無視しては決められないはずであるし、各階層の人々がバレーボールに何を求めるかによっても変わってくるはずであるが、これらの妥当性や改良の是非などについての科学研究はまだ見られない。

(21) その他の研究

- この中に見られる研究としては、清川勝行（天理大）のバレーボールの文献調査

の他、バレーボールの知識検査、バレーボールとダンスとの研究、歴史的記述などである。

〔VI〕 ま と め

(1) 総 括

日本におけるバレーボールに関する種々の研究物のうち、今回は「日本体育学会」における研究発表について、カードに分類し、整理集計した結果、次の様な傾向が見られた。

- 1) 第1回より第30回迄の発表総数12,973件のうち、少しでもバレーボールについての内容を含んだ研究は3.5%の512件で、そのうちバレーボールを主とした研究は64.8%の280件であった。(発表総数に対しては2.2%)これは年度平均にするとそれぞれ17.1件、9.3件となる。

- 2) バレーボールを主とした研究については、ゲーム分析、指導法に関するものが最も多く、28.2% (79件) に及んでいる。

バレーの技術に直接関連した研究は、夫々の件数はまだ少ないが、まとめると、32.9% (92件) になり、体育社会、体育心理、体育生理として扱われた研究も27.5% (77件) にのぼる。(二つの領域にまたがった研究もあるので合計は100%をこしている)

しかし研究内容をくわしく調べてみると、バレーボールに貢献している秀れた研究が多い中で、発表の為の研究と思われるものも少なくないのは残念である。

又合宿に関する研究や、その他まだ研究数の少ない領域及びこれから更に開発・発展していくと予想される分野が数多く残されている。

- 3) 専門分野別に見ると、体育方法・指導の研究が最も多く、体育社会学的研究がこれにつぎ、以下体育心理、体力・運動能力、体育生理の順に研究が多く見られる。

- 4) 研究方法については、調査及び検査・測定法による研究が最も多く、夫々30%をこしており、調査法の中では質問紙法が、検査測定では形態機能法が、観察法では行動観察が、実験的方法では生理学的方法とバイオメカニクに関する方法が多く用いられている。

小項目別では形態機能の測定と質問紙法がもっとも多く用いられている方法でそれぞれ20%をこしている。

- 5) 研究方法と研究内容の関連では、質問紙法による体育社会学的研究、形態機能測定法による体力・運動能力の研究がもっとも多く見られる。

(2) 今後の課題

1) 今回は調査の対象としなかった分野（定期刊行物、各大学紀要、著書、保健体育専攻学生の卒論など）については、収集が非常に困難なものが多いが、次の機会には是非共資料を収集し分類していきたいと考えている。

2) 近年の二度にわたる、ブロックを中心としたルールの改正は、日本チームにとって非常に不利なものと云われているが、何としてでもこの難関を克服しなければ世界のバレー界からとりのこされていくことは明白である。

そこには身長差の問題、体力差の問題など、様々な障害があるだろうが、世界のバレーに追いつき追いつ越していく為には、これ迄積み重ねられて来た研究成果の上に、緊密な連絡をとりながら系統的かつ能率良く研究を行なって、実のある対策方法や技術・戦術を生み出していかなければならない。

3) と同時に、トップレベルのバレーボールだけでなく、日本のバレーボールの底辺拡大とそのレベルアップを進めていく為にも、対象別、事例別、目的別に多くの研究データをまとめていくことも、おろそかにしてはならない。

又、バレーボールが、今後も一層発展していく為には、ルールやその他についても、このままで良いのか、などについて新しいアイデアを結集して研究を進めていく必要がある。

4) この研究には、分類方法や考察などに幾多の不備や欠点があると思うし、私自身も気がついている点がいくつかあるが、ひとまずこれを第一歩とし、バレーボール関係者の意見も聞いて、更に有効で利用し易い形にまとめていきたいと考えている。関係者の忌憚のない御意見と御指導をいただきたい。

最後に、この研究に当り、資料提供や助言などに心よく御協力下さった方々に、心から感謝の意を表する次第である。

参 考 文 献

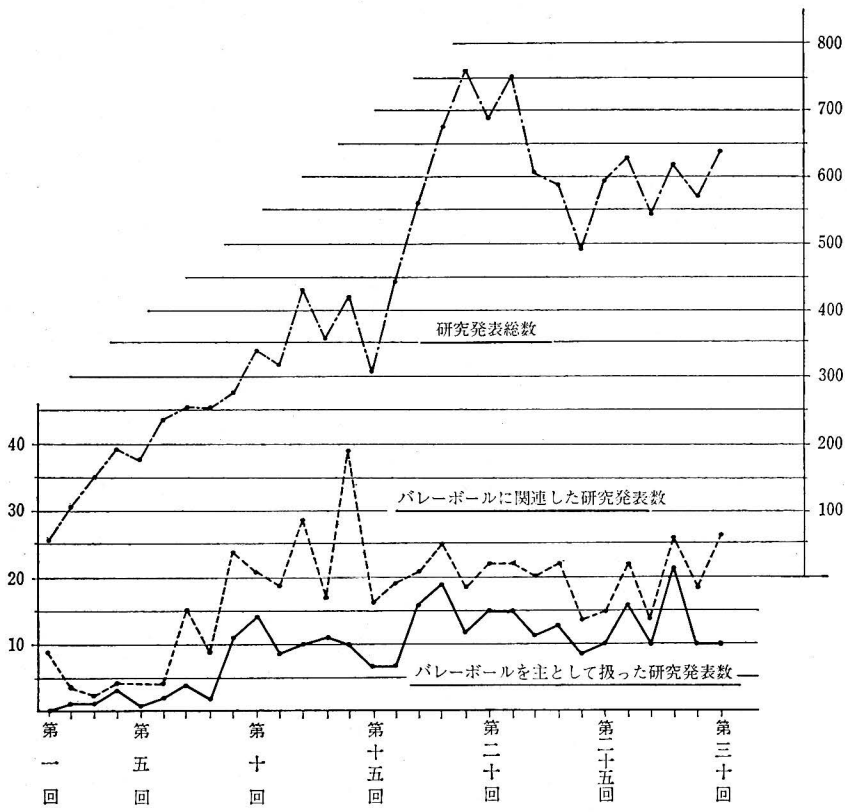
- 1) 「日本におけるバレーボールの文献について」 花田敬一・清川勝行 天理大学学報体育編 7 (1968. 11)
- 2) 「体育学研究文献分類目録」(第1巻・日本体育学会発表論文、第1~20回) 谷村辰己編 不味堂出版 (1970. 11)
- 3) 「体育学研究にみられる柔道に関する研究の動行について」 古賀、花田、井上(天理大学) 日本体育学会第23回発表、p. 451 (1972. 10)
- 4) 「図説バレーボール事典」 前田、松平、豊田、講談社、(1967. 11)
- 5) 「バレーボール指導教本」 日本バレーボール協会編、大修館書店 (1977. 4)

バレーボールに関する文献研究〔Ⅰ〕

第1表 日本体育学会（期日、会場、研究発表数）

大会 (回)	期 日		会 場	巻～号	研 究 発 表 数				
	年	月			総 数	バレーボールに関連した研究数	バレーボールを主とした研究数		
1	(1950)	25	11	東京大学	～1	51	8	15.7	0
2		26	11	同上	抄 録	104	3	2.9	1
3		27	11	同上	"	149	2	1.3	1
4		28	11	名古屋大学・名古屋工業大学	"	183	4	2.2	3
5		29	11	東京学芸大学	"	174	4	2.3	1
I 期 (小 計)					(661)	(21)	(3.2)	(6)	(28.6)
6	(1955)	30	11	京都大学	抄 録	237	4	1.7	2
7		31	11	中央大学	2～7	254	15	5.9	4
8		32	11	久留米医科大学	3～1	252	8	3.2	2
9		33	11	日本体育大学	4～1	276	23	8.3	11
10		34	11	大阪大学医学部	5～1	340	21	6.2	14
II 期 (小 計)					(1,359)	(71)	(5.2)	33	(46.5)
11	(1960)	35	11	早稲田大学	6～1	320	19	5.9	8
12		36	11	名古屋大学	7～1	430	28	6.5	10
13		37	11	慶応大学	8～1	359	17	4.7	11
14		38	11	同志社大学	9～1	422	38	9.0	10
15		39	8	日本大学文理学部	10～1	305	16	5.2	7
III 期 (小 計)					(1,836)	118	(6.4)	46	(39.0)
16	(1965)	40	8	北海道大学	10～2	446	19	4.3	7
17		41	10	東京大学教養学部	11～5	558	21	3.8	16
18		42	11	大阪大学	12～5	671	25	3.7	19
19		43	9	東海大学	13～5	752	18	2.4	12
20		44	9	広島工業大学	14～5	689	22	3.2	15
VI 期 (小 計)					(3,116)	(105)	(3.4)	(69)	(65.7)
21	(1970)	45	11	国士舘大学	15～5	748	22	2.9	15
22		46	10	日本体育大学	大会号	604	20	3.3	12
23		47	10	福岡大学	"	580	22	3.8	13
24		48	10	東京大学	"	489	13	2.7	8
25		49	10	東京工業大学・都立大学	"	591	15	2.5	10
V 期 (小 計)					(3,012)	(92)	(3.1)	(58)	(63.0)
26	(1975)	50	9	天理大学	大会号	626	22	3.5	16
27		51	8	東北大学	"	542	13	2.4	10
28		52	10	山梨大学	"	619	26	4.2	22
29		53	12	高知大学	"	568	18	3.2	10
30		54	10	金沢大学	"	634	26	4.1	10
IV 期 (小 計)					(2,989)	(105)	(3.5)	(68)	(64.8)
合 計					12,973	512	3.9	280	54.7

バレーボールに関する文献研究〔Ⅰ〕



第1図 日本体育学会・研究発表数

鎌 田 英 爾

第2表 バレーボールに関する研究の年度別分類

大会(回)	(1) バス・トス	(2) サーブ	(3) スパイク	(4) ブロック	(5) ジャンプ	(6) レシーブ	(7) 指導法(学校体育)	(8) ゲーム分析	(9) 体育社会	(10) 体育心理	(11) 体育生理	(12) 保健・衛生	(13) 体格	(14) 体力	(15) 体格・体力	(16) 合宿	(17) (評価) スキルテスト	(18) ルール	(19) 審判	(20) 施設・用具	(21) その他	合計
1		1					3		4	1	1	1					1					12
2							1			2												3
3					1													1				2
4									2	1	1											4
5							1	1	1	1	1		1									6
小計	—	(1)	—	—	(1)	—	(5)	(1)	(7)	(5)	(3)	(1)	(1)	—	—	—	(1)	(1)	—	—	—	(27)
6										1	1					2						4
7		1							4	5			1	1	2					1		15
8							1	1	1	2	1				2	1						9
9		1	1		1		2	1	4	1	8		2	3	1	1		1	1			28
10	2	1	1				2	2	5	2	3	1		1	2	2	1				1	26
小計	(2)	(3)	(2)	—	(1)	—	(5)	(4)	(14)	(11)	(13)	(1)	(3)	(5)	(9)	(4)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(82)
11			1				4			1	3	2	3	3	2		1		1			21
12					1		5	2	5	2	1	2	3	3	4	1						29
13			1		3		1	1	3	1	2			3		1		1	1			18
14			1			1	1	3	4	12	2	2	8	5	1	1						41
15			1		2		1	2		3	3	1	1	3								17
小計	—	—	(4)	—	(6)	(1)	(12)	(8)	(12)	(19)	(11)	(7)	(15)	(17)	(7)	(3)	(1)	(1)	(2)	—	—	(126)

16	1				2		1	2	5	3	1		2	2								19
17	2	2	1		1		2	1	2	2		1	2	2	1					1	1	21
18	5	1	1		3		4	5	4	1	1	1		3			1	1	1			32
19			2		4	1	1	5	1			1	1	2		1	1					20
20		1	1	1	1		2	3	2	1	1	2	2		3		2					22
小計	(8)	(4)	(5)	(1)	(11)	(1)	(10)	(16)	(14)	(7)	(3)	(4)	(7)	(8)	(6)	—	(4)	(2)	(1)	(1)	(1)	(114)
21		1	2		1		2	4	5		3		1	1	1		1		1			23
22	2	2	1		1		3	1	1	3	3		3	2				1				23
23	1	2	1				3	2	6	2	1	1		4				1			1	25
24	1				1		1	2	1	4			1	1	1	1						14
25	1		1		1	1		5	3	1				2	1							16
小計	(5)	(5)	(5)	—	(4)	(1)	(8)	(13)	(17)	(7)	(11)	(1)	(5)	(10)	(3)	(1)	(1)	(2)	(1)	—	(1)	(101)
26	1	1				2		3	4	4	1		4	1	1	1						23
27		1				1	2		3	1	2		1	2				1				14
28	1	1				2	4	3	4	1	2	2	1	2	3		1	3			1	31
29				2	1		2	2	3	1	4			3		1		1				20
30			1			1	1	5	10	1	1	1	1	2							3	27
小計	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(6)	(9)	(13)	(24)	(8)	(10)	(3)	(7)	(10)	(4)	(2)	(1)	(5)	—	—	(4)	(115)
合計	17	16	17	3	24	9	49	55	88	57	51	17	38	50	29	10	9	12	5	2	7	565
%	3.0	2.8	3.0	0.5	4.3	1.6	8.7	9.8	15.6	10.1	9.0	3.0	6.7	8.9	5.1	1.8	1.6	2.1	0.9	0.4	1.2	100.0

鎌 田 英 爾

第3表 専門分野別の年度別分類

大会(回)	① 体育原理	② 体育史	③ 体育社会	④ 体育心理	⑤ 体育生理	⑥ バイオメカニクス	⑦ 体育管理	⑧ 発育発達	⑨ 検査・測定評価	⑩ 体育方法・指導	⑪ 保健・衛生	⑫ 体力・運動能力	合計
1			2	1	1		3			1			8
2				2						1			3
3									1	1			2
4			1	1	1					1			4
5				1	1			1		1			4
小計	—	—	(3)	5)	(3)	—	(3)	(1)	(1)	(5)	—	—	(21)
6				1	1			2					4
7			4	5	1	1	1	2	1				15
8			2	2	1		1					2	8
9			3	1	5	2		3	4	4		1	23
10			5	2	4	3	1	1	1	1	1	2	21
小計	—	—	(14)	(11)	(12)	(6)	(3)	(8)	(6)	(5)	(1)	(5)	(71)
11				1	4	1		4	4	4		1	19
12			3	3	2		2	3	3	7	1	4	28
13			3	1	1	1		1	3	3	1	3	17
14			4	12	5	1	1	4	4	3	2	2	38
15				3	3	1		1	2	2	1	3	16
小計	—	—	(10)	(20)	(15)	(4)	(3)	(13)	(16)	(19)	(5)	(13)	(118)
16			3	6		2		3	2	2		1	19
17			1	3	1	3		2	1	5	1	4	21
18	1		1	1	1	4	2	2	2	8		3	25
19						1	1	2	2	7		5	18
20			2	1	1	4	1	1	3	5	1	3	22
小計	(1)	—	(7)	(11)	(3)	(14)	(4)	(10)	(10)	(17)	(2)	(16)	(105)
21			5	1	4	2		1	1	7		1	22
22			1	4		5		2		5	1	2	20
23		1	6	3	1	2				5		4	22
24			1	2	4	2		1				3	13
25			3	1		2				5		4	15
小計	—	(1)	(16)	(11)	(9)	(13)	—	(4)	(1)	(22)	(1)	(14)	(92)
26			3	4	1	2	2	3	1	3	1	2	22
27			5	1	2	1				2		2	13
28			6	1	1	2	1	1	1	10	1	2	26
29			1	1	4	1	1			7		3	18
30	1	2	5		2	2	5			8	1		26
小計	(1)	(2)	(20)	(7)	(10)	(8)	(9)	(4)	(2)	(30)	(3)	(9)	(105)
合計	2	3	70	65	52	45	22	40	36	108	12	57	512
％	0.4	0.6	13.7	12.7	10.2	8.8	4.3	7.8	7.0	21.1	2.3	11.1	100.0

バレーボールに関する文献研究〔Ⅰ〕

第4表 研究方法の年度別分類

大会 (回)	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	合 計
	調 査			検査・測定		観 察		実 験 的			論 説・記 述	そ の 他	
	文 献・歴 史	記 録 分 析	質 問 紙 法	形 態 機 能	テ ス ト 法	面 接 法	行 動 観 察	生 理 学 的	心 理 学 的	バ イ ッ ク オ メ カ			
1			5	2				1					8
2			1		1		1		1				4
3				1							1		2
4			2					1			1		4
5			1	1				1			1		4
小計	—	—	(9)	(4)	(1)	(一)	(1)	(3)	(1)	—	(3)	—	(22)
6				2			1	1					4
7		1	3	4	2		1		2	1		2	16
8		1	3	2	1	1		1					9
9		1	8	4			2	9		1	1		26
10		1	6	4	1		4	5		3			24
小計	—	(4)	(20)	(16)	(4)	(1)	(8)	(16)	(2)	(5)	(1)	(2)	(79)
11	1		3	8	2		2	4		1			21
12		4	9	8	2		3	2					28
13		2	5	6			1	2		1			17
14		3	4	12	11			4		1	1	2	38
15		1	3	5	3			3		2			17
小計	(1)	(10)	(24)	(39)	(18)	—	(6)	(15)	—	(5)	(1)	(2)	(21)
16		1	4	3	4		1	1		3	2		19
17	1	2	4	7	1		2	1		4			22
18		2	7	7	3		1	1	1	4	1		27
19		3	2	8	1	1		1		2		1	19
20	2	2	3	4	1		3		1	5	2		23
小計	(3)	(10)	(20)	(29)	(10)	(1)	(7)	(4)	(2)	(18)	(5)	(1)	(110)
21		2	5	5	1		1	5		2	1		22
22		2	3	4	1		2	1	1	4	1		19
23		2	6	4	2		2	2		2	1	2	23
24		1	2	2	1			5		2			13
25		3	4	4			1			1	1	1	15
小計	—	(10)	(20)	(19)	(5)	—	(6)	(13)	(1)	(11)	(4)	(3)	(92)
26		3	5	4	4		2	3		2			23
27		1	3	3			2	2			2		13
28		4	7	7	1		2	1		2	3	1	28
29		2	3	3	1		2	4		1	2		18
30	2	5	12	1	1	2		1		2	1	1	28
小計	(2)	(15)	(30)	(18)	(7)	(2)	(8)	(11)	—	(7)	(8)	(2)	(110)
合計	6	49	123	125	45	4	36	62	6	46	22	10	534
％	1.1	9.2	23.0	23.4	8.4	0.8	6.7	11.6	1.1	8.6	4.1	1.9	100.0

第 5 表 バレーボールに関する研究の専門分野別分類

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	合 計	%
		体 育 原 理	体 育 史	体 育 社 会	体 育 心 理	体 育 生 理	バ イ オ メ カ ニ ッ ク	体 育 管 理	発 育 発 達	検 査 ・ 測 定 評 価	体 育 方 法 ・ 指 導	保 健 ・ 衛 生	体 力 ・ 運 動 能 力		
(1)	パス・トス					1	7			1	5	1	2	17	3.0
(2)	サーブ				1		8				7			16	2.8
(3)	スパイク						16		1					17	3.0
(4)	ブロック						1				2			3	0.5
(5)	ジャンプ						5		2	6			11	24	4.2
(6)	レシーブ					1	2			1	5			9	1.6
(7)	指導法(学校体育)	1		4	2	1		3			37		1	49	8.7
(8)	ゲーム分析			1	6	4					42		2	55	9.7
(9)	体育社会	1		63	6	1		12			5			88	15.6
(10)	体育心理			1	55						1			57	10.1
(11)	体育生理				1	40	2	1	3	1		1	2	51	9.0
(12)	保健・衛生			1		1		4	2			9		17	3.0
(13)	体 格			1		4	2	1	26	2			2	38	6.7
(14)	体 力				1	2	2		1	11	2		31	50	8.8
(15)	体格・体力			1			1		7	11			9	29	5.1
(16)	合 宿					6					1	3		10	1.8
(17)	スキルテスト(評価)									6	3			9	1.6
(18)	ル ー ル		1	1							10			12	2.1
(19)	審 判				1	2					2			5	0.9
(20)	施設・用具							1			1			2	0.4
(21)	そ の 他	1	2		1			1			2			7	1.2
合 計		3	3	73	74	63	46	23	42	39	125	14	60	565	
%		0.5	0.5	12.9	13.1	11.2	8.1	4.1	7.4	6.9	22.1	2.5	10.6		100.0

バレーボールに関する文献研究〔Ⅰ〕

第6表 主としてバレーボールを扱った研究の専門分野別分類

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	合 計	%
		体 育 原 理	体 育 史	体 育 社 会	体 育 心 理	体 育 生 理	バ イ オ メ カ ニ ッ ク	体 育 管 理	発 育 発 達	検 査 ・ 測 定 評 価	体 育 方 法 ・ 指 導	保 健 ・ 衛 生	体 力 ・ 運 動 能 力		
(1)	パス・トス					1	7			1	5		2	16	5.0
(2)	サーブ				1		8				6			15	4.7
(3)	スパイク						16		1					17	5.3
(4)	ブロック						1				2			3	0.9
(5)	ジャンプ						5		2	4			8	19	5.9
(6)	レシーブ					1	2			1	5			9	2.8
(7)	指導法(学校体育)	1		3	1	1					32		1	39	12.2
(8)	ゲーム分析				6	3					42		2	53	16.6
(9)	体育社会	1		22	1	1		1			3			29	9.1
(10)	体育心理				21						1			22	6.9
(11)	体育生理					19	1	1	2			1	2	26	8.1
(12)	保健・衛生								1			3		4	1.3
(13)	体 格					1			5				1	7	2.2
(14)	体 力				1		1			2	1		11	16	5.0
(15)	体格・体力						1		2	6			3	12	3.8
(16)	合 宿					5						3		8	2.5
(17)	スキルテスト(評価)									4	2			6	1.9
(18)	ル ー ル		1								9			10	3.1
(19)	審 判				1	1					1			3	0.9
(20)	施設・用具							1			1			2	0.6
(21)	そ の 他				1			1			2			4	1.3
合 計		2	1	25	33	33	42	4	13	18	112	7	30	320	
%		0.6	0.3	7.8	10.3	10.3	13.1	1.3	4.1	5.6	35.0	2.2	9.4		100.0

第7表 バレーボールに関する研究の研究手法別分類

		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	合 計	%	
		調 査		検査・測定		観 察		実 験 的		論 説・記 述		そ の 他				
		文 献・歴 史	記 録 分 析	質 問 紙	形 態 機 能	テ ス ト 法	面 接	行 動 観 察	生 理 学				心 理 学			バ イ オ メ カ ニ ッ ク
(1)	パス・トス			1	1	3	2		1	1		8		17	2.9	
(2)	サ ー ブ			2	1	1			2	1		7	1	2	17	2.9
(3)	スパイク											17			17	2.9
(4)	ブロック			1								1	1		3	0.5
(5)	ジャンプ					15				3		6			24	4.1
(6)	レシーブ			1		2			4	1		1			9	1.5
(7)	指導法(学校体育)	1			14	7	2		21				7	2	54	9.3
(8)	ゲーム分析			28	6	5			5	3			5	3	55	9.5
(9)	体 育 社 会			5	74		2	3	4				2	2	92	15.8
(10)	体 育 心 理				14		38	1	5		2				60	10.3
(11)	体 育 生 理				1	2				47	1				51	8.8
(12)	保健・衛生			4	10	1				2		1		1	19	3.3
(13)	体 格			7	1	26				1		3			38	6.5
(14)	体 力			2	1	44				2		2			51	8.8
(15)	体格・代力			1	1	25				1		1			29	5.0
(16)	合 宿				2	1				8					11	1.9
(17)	スキルテスト(評価)	2	1			2	4								9	1.5
(18)	ル ー ル			2	3								7		12	2.1
(19)	審 判				3					2					5	0.9
(20)	施設・用具									1				1	2	0.3
(21)	そ の 他	3			2									2	7	1.2
合 計		6	55	134	134	48		4	42	73	3	47	23	13	582	
%		1.0	9.5	23.0	23.0	8.2		0.7	7.2	12.5	0.5	8.1	4.0	2.2		100.0
		195 33.5 %				182 31.3 %		46 7.9 %		123 21.1 %			23 4.0		13 2.2	

バレーボールに関する文献研究〔Ⅰ〕

第8表 専門分野と研究方法の分類

		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	合 計	%
		調 査		検査・測定		観 察		実 験 的			論 説・記 述	そ の 他			
		文 献・歴 史	記 録 分 析	質 問 紙	形 態 機 能	テ ス ト 法	面 接	行 動 観 察	生 理 学	心 理 学			バ イ オ メ カ ニ ッ ク		
①	体 育 原 理			1									1	2	0.4
②	体 育 史	2										1		3	0.6
③	体 育 社 会		6	56		1	2	4				2	2	73	13.7
④	体 育 心 理			21	2	37	1	5		4		1	1	72	13.5
⑤	体 育 生 理			2	7			1	44	2				56	10.5
⑥	バイオメカニク		1		1			1	2		39	1		45	8.4
⑦	体 育 管 理		3	15	2		1		1				1	23	4.3
⑧	発 育 発 達		6	1	26				4		3			40	7.5
⑨	検査・測定評価	2	1		27	3			3					36	6.7
⑩	体育方法・指導	2	29	18	9	4		25	3		1	17	4	112	21.0
⑪	保 健・衛 生		1	9	1				1		1		1	14	2.6
⑫	体力・運動能力		2		50				4		2			58	10.9
合 計		6	49	123	125	45	4	36	62	6	46	22	10	534	
%		1.1	9.2	23.0	23.4	8.4	0.7	6.7	11.6	1.1	8.6	4.1	1.9		100.0
		178 33.3%			170 31.8%		40 7.5%		114 21.3%			22 4.1%	10 1.9%		

〔Ⅶ〕 バレーボールに関する体育学研究文献分類目録

- (1) 日本体育学会の第1回から第30回迄の間に発表された論文のうち、少しでも、バレーボールに関する研究が含まれている論文512件を、カードにより分類したが、ここには、主としてバレーボールの諸問題について研究した論文280件のみを収録した。
- (2) バレーボールに関する分類は独自の方法により区分して、利用しやすいように配慮した。
- (3) バレーボールの2つの分類項目にまたがる論文については、両方に記載した。
- (4) 記載の順序は、1行目に「通し番号」「表題」、2行目に「大会」「年度」「頁」「発表者」「所属」「共同研究者数」及び最後に「専門分野別」を数字（P77の分類項目を参照）で記入した。
- (5) 表題のあとにある（注）は筆者が加筆したものである。
- (6) この文献目録は「体育学研究大会号」により作成した。

(1) パス・トス

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
001	バレーボールのフォームについて、第一報、オーバーハンドパス						
		10	34	117	石黒 国雄 (富山大学)	他 1 名	⑥
002	中学生女子バレーボールのパス技能と体格・筋力及び運動能力との関係について						
		10	34	225	金子 基之 (富山大学)	—	⑫
003	バレーボールの基礎技術に関する研究、特にアンダーハンドパスのフォームについて						
		16	40	438	川合 武司 (順天堂大学)	他 2 名	⑥
004	バレーボールに於けるアンダーハンドパス・フォームの分析的研究 (第 2 報)						
		17	41	224	川合 武司 (順天堂大学)	他 2 名	⑥
005	運動調節能力に関する研究 (注パスについて)						
		17	41	225	大野 武治 (東京学芸大学)	—	⑫
006	Volley Ball の基礎技能に関する力学的研究						
		18	42	102	川合 武司 (順天堂大学)	他 1 名	⑥
007	中学校におけるバレーボール上手パスの初期指導について						
		18	42	104	浅井 慶一 (山形大学)	他 1 名	⑩
008	セッターの眼疲労と視力について						
		22	46	429	古市 英 (早稲田大学)	他 1 名	⑪
009	バレーボールのパスの分析						
		23	47	224	南川 和世 (日本体育大学研究所)	他 2 名	⑥
010	バレーボールのパスの分析 (その 2)						
		24	48	170	南川和世 (日本体育大学)	他 2 名	⑥
011	バレーボールのゲームにおけるトスについて						
		25	49	347	福原祐三 (東海大学)	—	⑩
012	呼吸循環系反応から見たバレーボールの強度						
		25	50	298	檜林真野子 (東京家政学院大学)	他 1 名	⑤
013	バレーボールのパスの分析—未熟練者の場合—						
		28	52	359	村本 和世 (日本体育大学研究所)	他 2 名	⑥

(2) サーブ

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
014	流体中を通過する Ball と Circulation の関連性 (Volley Ball の Serve 上における Reason)						
		7	31	199	森脇 正夫 (大阪市立大学)	—	⑥
015	ボールの速度を計測する方法とその結果						
		9	33	137	多和 健雄 (東京教育大学)	—	⑥

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
016	Volley Ball における Serve の正確度とその方法について						
		10	34	152	岡野 映子 (帝塚山短期大学)	—	⑥
017	スポーツ試合場面の心理的研究 (その 9) — 6 人制バレーボールのサーブについて —						
		17	41	79	辻本 勇 (奈良教育大学)	他 3 名	④
018	軟式テニスとバレーボールにおけるサーブフォームの分析 (その 1) 打球の瞬間におけるラケット並びに手先とボールとの関係について						
		17	41	221	三浦 睦夫 (芝浦工業大学)	他 5 名	⑥
019	軟式テニスとバレーボールにおけるサーブフォームの分析 (その 2) ボールに回転を与えるサーブフォームの分析						
		18	42	106	三浦 睦夫 (芝浦工業大学)	他 8 名	⑥
020	バレーボールのサーブ球についての一考察						
		20	44	291	古市 英 (早稲田大学)	他 2 名	⑥
021	バレーボールのサーブによる手の腫張に関する研究 (第 1 報)						
		21	45	212	生田 豊 (徳島大教育学部)	—	⑩
022	バレーボールのサーブフォームの分析						
		22	46	338	三浦 睦夫 (芝浦工業大学)	他 4 名	⑥
023	バレーボールのサーブによる手の腫張に関する研究 (第 2 報)						
		22	46	427	生田 豊 (徳島大教育学部)	—	⑩
024	バレーボールのゲーム分析と練習の構成、(2) サーブを中心として						
		23	47	410	枋堀 申二 (東京教育大学)	他 1 名	⑩
025	バレーボールのサーブによる手の腫張に関する研究 (第 3 報)						
		23	47	411	生田 豊 (徳島大教育学部)	—	⑩
026	バレーボール競技におけるサーブ動作の分析						
		26	50	520	三浦睦夫 (芝浦工業大学)	他 4 名	⑥
027	バレーボールにおけるサーブとサーブレシーブに関する研究 (その 1)						
		27	51	470	福原 祐三 (筑波大学)	他 1 名	⑩
028	家庭婦人バレーボールに関する研究 (第 2 報) — サーブ及びサーブレシーブについて						
		28	52	529	宮田 和信 (京都教育大学)	—	⑩

(3) スパイク

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
029	ボールの速度を計測する方法とその結果						
		9	33	137	多和 健雄 (東京教育大学)	—	⑥
030	バレーボールのフォームに関する研究 (第 1 報) 中衛左からのスパイクフォームにつ いて						
		10	34	153	山本 隆久 (東京大学)	他 1 名	⑥
031	バレーボ ルのフォームに関する研究 (第 2 報) 中衛左からのスパイクフォームにつ いて (その 2)						
		11	35	251	山本 隆久 (東京大学)	他 1 名	⑥

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
032	バレーボールのフォームに関する研究 (第3報) スパイクのフォームについて (その3)	13	37	145	山本 隆久 (東京大学)	他 1 名 ⑥
033	バレーボールのフォームに関する研究 (第4報) スパイクのフォームについて (その4)	14	38	309	山本 隆久 (東大教養学部)	他 6 名 ⑥
034	打叩力に関する実験的研究 (バレーボール)	15	39	159	森屋 鷺男 (鹿児島大教育学部)	他 6 名 ⑥
035	バレーボールの基本技能の力学的研究 (第1報) スパイクの適性な打点について	17	41	225	高橋 亮三 (順天堂大学)	他 3 名 ⑥
036	バレーボールのフォームに関する研究 (第5報) スパイクのフォームについて (その5)	18	42	102	山本 隆久 (大阪体育大学)	他 2 名 ⑥
037	バレーボールのジャンプに関する研究 (第1報) スパイク動作時の軀幹角度について	19	43	276	森田 昭子 (東京女子体育大学)	他 4 名 ⑥
038	バレーボール選手の背椎 (胸椎部) の柔軟度とスパイクの関係について	19	43	277	小鹿野友平 (日本女子体育大学)	— ⑧
039	バレーボールのフットワークに関する研究 (その1) スパイクの踏込動作について	20	44	291	川合 武司 (順天堂大学)	他 1 名 ⑥
040	バレーボールのスパイクに関する研究	21	45	212	高橋 和之 (日本女子体育短期大学)	他 4 名 ⑥
041	バレーボールのスパイクフォームの力学的研究	21	45	217	高橋 亮三 (順天堂大学)	他 5 名 ⑥
042	バレーボールのスパイクに関する実験的研究	22	46	430	岩崎 和子 (東京教育大学)	他 5 名 ⑥
043	スパイクボールのコース選択とスピードの関係	23	47	223	砂本 秀義 (東邦大附属駒場東邦高校)	— ⑥
044	バレーボール・スパイクの筋電図的研究	25	49	493	岡本 勉 (関西医科大学)	他 3 名 ⑥
045	腕のスイングから見たスパイク動作の研究	30	45	370	川合 武司 (順天堂大学)	他 6 名 ⑥

(4) ブロック

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
046	バレーボールのブロックに関する研究—ジャンプ前の沈み込み角度について	20	44	281	森田 昭子 (東京女子体育大学)	他 6 名 ⑥
047	ブロック効果に関する一考察	29	53	486	都沢 凡夫 (筑波大学)	他 2 名 ⑩
048	ブロックのルール改正に伴う内容の変化について (1977改正)	29	53	490	木村 正一 (慶応大学)	— ⑩

(5) ジャンプ

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 研究者数	同 数	専門 分野
049	Sargent Jump と走力から見た簡単な運動素質検査	3	27	4	清野 市治 (室蘭工業大学)	—		⑨
050	大腿骨長および脛骨長と運動能力との関連性について (第2報)	9	33	26	森脇 正夫 (大阪市立大学)	—		⑧
051	バレーボール競技における選手の運動適性から見たジャンプの分析的研究	12	36	102	沖 武夫 (福井大学)	—		⑨
052	バレーボール選手 (男子) の身体適性に関する研究 (特に跳躍力について統計学的考察) 第3報	13	37	2	津島 達郎 (都立世田谷工業高校附属中学)	他1名		⑨
053	バレーボール選手 (女子) の身体適性に関する研究 (特に跳躍力についての統計学的考察) 第3報	13	37	3	中島 昭子 (都立芝浦商業高校)	他1名		⑨
054	バレーボール競技とジャンプ力との関連性について (報告その1) 男子6人制バレーボール選手のジャンプ力について	13	37	69	島田 出雲 (大阪市立大学)	他2名		⑫
055	バレーボール選手の身体適性に関する研究 (第2報) (特に脚筋力の因子分析について統計学的考察)	15	39	201	沖 武夫 (福井大学)	—		⑨
056	跳躍力を大きくする基礎的技術の研究 (第2報)	15	39	211	三浦 望慶 (東京教育大スポーツ研究所)	他2名		⑫
057	跳躍力を大きくする基礎的技術の研究 (その3) 一助走を利用して高くとぶ場合—	16	40	204	三浦 望慶 (東京教育大学スポーツ研料所)	他2名		⑥
058	Jump 持久力の測定	16	40	341	塚越 克己 (日本体協スポーツ医事相談所)	他4名		⑨
059	バレーボールのウォーミングアップ前後の垂直跳についての一考察	17	41	170	木村 章二 (関西大学)	他1名		⑫
060	女子バレーボール選手のジャンプ力と身長との相関	18	42	103	中島 勝政 (追手門学院大学)	他2名		⑧
061	Warming Up 前後の垂直跳についての一考察 (その2)	18	42	117	木村 章二 (関西大学)	他2名		⑫
062	バレーボールのアタックにおけるジャンプ力に関する実験的研究	18	42	140	高野 範男 (鹿児島大教育学部)	他2名		⑥
063	女子バレーボール選手のジャンプ力と技術について	19	43	199	中島 勝政 (追手門学院大学)	他6名		⑫
064	バレーボール選手のジャンプに関する研究 (第3報) 一単位時間内に於けるジャンプの回数と記録の変動について—	19	43	203	木村 章二 (関西大学)	他5名		⑫

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
065	球技の技能と運動能力との相関 (特にサイドステップとサージェントジャンプについて)	19	43	222	後藤 俊夫 (新宿区立東戸山中学)	他 1 名 ⑫
066	垂直跳における距離の調節能力について	19	43	223	金子 英一 (電気通信大学)	他 4 名 ⑫
067	バレーボール選手のジャンプの研究—助走スピードとジャンプ値についての考察—	20	44	204	木村 章二 (関西大学)	他 2 名 ⑫
068	重量負荷が垂直跳におよぼす影響について	21	45	108	春山 国広 (電気通信大学)	他 4 名 ⑫
069	垂直跳に関する一考察	22	46	260	古川 昇 (北海道教育大岩見沢分校)	— ⑥
070	バレーボールのジャンプについて	24	48	342	福原 祐三 (東海大学)	他 2 名 ⑥
071	バレーボール選手のジャンプについての研究	25	49	400	島津 大宣 (日本女子大学)	他 3 名 ⑫
072	跳躍運動に関する研究、第 4 報、バレーボール選手の跳躍動作の分析	29	53	295	佐々木 宏 (広島修道大学)	他 3 名 ⑥

(6) レシーブ

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
073	バレーボールのローリングレシーブ時の筋電図	14	38	128	原田 昌子 (都立柴野高校)	— ⑤
074	バレーボールのアンダーハンドブレーの効果的指導法、反射板を使用した技術指導	25	49	346	吉沢 秀晃 (東北大学)	他 2 名 ⑥
075	バレーボールのレシーブの分析	26	50	349	南川 和世 (日本体育大学)	他 2 名 ⑥
076	バレーボールの勝敗に関する一考察—サーブレシーブについて—	26	50	518	小野田えい子 (名城大学)	他 2 名 ⑩
077	バレーボールにおけるサーブとサーブレシーブに関する研究 (その 1)	27	51	470	福原 祐三 (筑波大学)	他 1 名 ⑩
078	スパイク動作に対する「よみ」の研究	28	52	527	栃堀 申二 (筑波大学)	他 1 名 ⑩
079	家庭婦人バレーボールに関する研究 (第 2 報) —サーブ及びサーブレシーブについて	28	52	529	宮田 和信 (京都教育大学)	— ⑩

(7) 指導法 (学校体育)

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
080	体育の学習指導における場の構成に関する研究一個人の性格を持つグループと、社会的性格を持つグループにおける、それぞれの成員の社会的行動と運動技能との発達の様相 (その1) —	9	33	210	松井 久男 (広島大附属中・高校)	他 4 名 ⑩
081	体育の学習指導における場の構成に関する研究一個人の性格を持つグループと、社会的性格を持つグループにおける、それぞれの成員の社会的行動と運動技能との発達の様相 (その2) —	9	33	211	西谷 怜子 (広島大附属中・高校)	他 4 名 ⑩
082	チーム・ゲームにおけるチームの凝集性の要因が、チーム成績に及ぼす効果	10	34	43	小林 篤 (九州大学)	他 1 名 ③
083	異なる指導法における学習効果の考察、第1報、団体種目、その1 技能や知識の向上は何れの方法がより望ましい傾向を示すか	11	35	229	森屋 鷺男 (鹿児島大教育学部)	他 2 名 ⑩
084	異なる指導法における学習効果の考察 (第1報、団体種目) その3 異なる指導法における集団の変化は、何れがより望ましい傾向を示すか	11	35	231	金子喜三郎 (鹿児島大教育学部)	他 2 名 ⑩
085	バレーボールにおける技術指導の問題点	11	35	249	荒木 豊 (都立富士高校)	他 8 名 ⑩
086	バレーボールにおける技術指導の実験的研究	11	35	250	吉崎 高弘 (和光学園)	他 8 名 ⑩
087	女子バレーボールチームの指導法について(1)	12	36	244	七山 武仁 (大阪府立大工業短期大学)	他 1 名 ⑩
088	体育の授業過程分析の試み	12	36	294	松本 尚大 (鹿児島大学)	— ⑩
089	「バレーボール」発達の様相(1)	12	36	394	松浦 潔 (岐阜大附属長良中学)	他14名 ⑩
090	「バレーボール」の指導過程(1)	12	36	397	船戸 正美 (岐阜大附属長良中学)	他14名 ⑩
091	バレーボール発達の様相と指導過程	13	37	149	船戸 正美 (岐阜大附属長良中学)	— ⑩
092	バレーボールの技術学習の系統性	14	38	308	荒木 豊 (都立富士高校)	他 4 名 ⑩
093	バレーボール発達の様相と指導過程(3)	16	40	261	橋本 正一 (岐阜大学)	他 2 名 ⑩

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
094	バレーボール発達の様相と指導過程 (その4) — 中学3年生の (攻) 防技能の指導—						
		17	41	222	松浦 潔 (岐阜市立長良中学)	他2名	⑩
095	Volley Ball の開始年齢と運動負荷について						
		17	41	223	鳴川 六司 (大阪外語大学)	他1名	⑤
096	バレーボールの教科指導において、9人制、6人制はいかに扱うべきか						
		18	42	104	西村 清己 (広島大学)	他3名	⑩
097	バレーボールチームの指導(2)						
		18	42	105	七山 武仁 (大阪府立工業高専)	—	⑩
098	中学校におけるバレーボール指導過程の研究(2)						
		19	43	275	室田 二郎 (大阪市立瑞光中学)	他1名	⑩
099	球板における Combination Play の形成—Volley Ball—						
		20	44	290	荒木 豊 (山梨大学)	他2名	⑩
100	V. T. R. による体育の授業分析結果について						
		20	44	332	坂本 和丈 (広島大学)	他2名	⑩
101	大学正課体育のバレーボール指導に関する一考察						
		21	45	217	西村 清己 (広島大福山分校)	—	⑩
102	バレーボールにおけるバスの効果的な指導法について—同質、異質グループとの比較 考察—						
		22	46	428	早川 貢 (愛知県東浦町立東浦中学)	他3名	⑩
103	バレーボールの系統的技術指導						
		22	46	431	荒木 豊 (山梨大学)	他2名	⑩
104	効果的な体育実技の指導法—技能を中心として—						
		22	46	605	高橋 亮三 (順天堂大学)	—	⑩
105	バレーボールの教科指導において、9人制、6人制はいかに扱うべきか						
		23	47	407	黒木 尚生 (倉敷青陵高校)	他2名	⑩
106	大学正課体育のバレーボール指導に関する研究						
		23	47	408	西村 清己 (広島大学)	—	⑩
107	スポーツ指導の事例的研究—体育の授業におけるバレーボールについて—						
		23	47	409	岡崎 助一 (倉敷中央高校)	他3名	⑩
108	バレーボールの授業の比較縦断的研究—ゲームへの効果的指導法—						
		25	49	345	大橋 美勝 (岡山大学)	他1名	⑩
109	正課体育におけるチームの業績と凝集性 (注バレー)						
		27	51	118	浅井 千穂 (大阪女子学園短期大学)	他2名	③
110	バレーボール運動における行動の組織化に関する研究						
		27	51	152	坂本 和丈 (福山市立女子短期大学)	—	④
111	正課体育におけるチームの業績と凝集性(2) (注バレー)						
		28	52	156	浅井 千穂 (大阪女子学園短期大学)	他2名	③

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
112	教科指導におけるバレーボールの指導(2)、ゲーム、技術、学習課題などの設定に関する現状把握	28	52	544	池田 延行 (岡山大学)	他 2 名	⑩
113	教科指導におけるバレーボールの指導—現状の問題と考察—	28	52	545	岡崎 助一 (岡山県立岡山芳泉高校)	他 2 名	⑩
114	現代における体育授業の課題—大学の一般体育実技の授業実践を通じての問題提起	28	52	555	原 通範 (和歌山大教育学部)	—	⑩
115	体育学習 (「運動/集団」学習) 指導課程に関する研究Ⅶ—運動習熟のメカニズム— (3)指導内容の焦点化とメカニズムのかかわり (注バレー)	29	53	439	森下忠博 (岐阜市加納中学)	他 4 名	⑩
116	スポーツ学習における教師の指導性について—中学校バレーボールの場合—	29	53	534	青木 真 (筑波大附属中学)	—	⑩

(8) ゲーム分析

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
117	スポーツ試合場面の心理学的研究—作戦タイム、選手交代が、選手、ゲームに及ぼす影響について—	12	36	58	辻本 勇 (奈良学芸大学)	他 2 名	④
118	得点差より見たバレーボールゲームの一考察	12	36	85	松田生米夫 (山口大文理学部)	他 1 名	⑩
119	得点差より見たるバレーボールゲームの一考察 (その 2)	13	37	17	松田生米夫 (山口大学)	他 1 名	⑩
120	得点差より見た、バレーボールゲームの一考察 (その 3)	14	38	74	松田生米夫 (山口大文理学部)	他 1 名	⑩
121	6人制バレーボール試合における、コーチの助言と試合成績について	14	38	310	土屋 照雄 (中央大学)	他 2 名	⑩
122	スポーツ試合場面の心理的研究、その 6—バレーボールにおける凡ミスと性格について— (注得点と失点)	15	39	225	山中 昭生 (大阪商科大学)	他 3 名	④
123	バレーボール競技における技術と得点との関連性について	15	39	301	土谷 秀雄 (大阪市立大学)	他 2 名	⑩
124	スポーツ試合場面の心理的研究、第 7 報—バレーボール入替戦における—	16	40	130	山中 昭生 (奈良女子大附属中学)	他 3 名	④
125	6人制バレーボールのゲーム分析に関する一考察 (第 1 報)—ゲームのモデル化について—	16	40	272	深瀬 吉邦 (都留文科大学)	他 3 名	⑩
126	バレーボールに関する一考察—マルコフ過程を利用したゲーム分析法— (第 2 報)	17	41	222	深瀬 吉邦 (都留文科大学)	他 2 名	⑩
127	バレーボールに関する一考察(3)—大学男女のゲーム構造の特色について—	18	42	100	深瀬吉邦 (都留文科大学)	他 3 名	⑩

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
128	バレーボールのゲーム構造に関する研究 (個人技能の優劣とゲームの構造の変化)					
		18	42	101	高校 亮三 (順天堂大学)	他 1 名 ⑩
129	バレーボールの技術に関する研究 (1) 男女トップクラス選手の技術成績について					
		18	42	101	島津 大宣 (東京大学)	他 2 名 ⑩
130	バレーボール競技における技術と体力との相関 (その 2)					
		18	42	103	土谷 秀雄 (大阪市立大学)	他 2 名 ⑫
131	6 人制バレーボールゲームの診断法					
		19	43	273	深瀬 吉邦 (都留文科大学)	他 3 名 ⑩
132	バレーボール競技における技術と体力の相関 (その 3)					
		19	43	274	土谷 秀雄 (大阪市立大学)	他 2 名 ⑩
133	バレーボールにおける 9 人制と 6 人制の相違点					
		19	43	274	西村 清己 (広島大福山分校)	他 2 名 ⑩
134	バレーボールの教科指導において 9 人制と 6 人制はいかに扱うべきか					
		19	43	275	黒木 尚生 (倉敷青陵高校)	他 2 名 ⑩
135	6 人制バレーボールの技術成績について (第 2 報) — 日本リーグ出場チームの昭和 42 年度、43 年度のチーム成績の比較について —					
		19	43	276	島津 大宣 (東大教養学部)	他 2 名 ⑩
136	バレーボールにおける 9 人制と 6 人制の相違点 — 第 2 報 —					
		20	44	281	西村 清己 (広島大福山分校)	他 4 名 ⑩
137	バレーボールのゲームに関する一考察					
		20	44	289	山本 隆久 (大阪体育大学)	他 2 名 ⑩
138	Volley Ball ゲームの分析的研究 — 女子の攻撃方法とその効果について —					
		20	44	289	深瀬 吉邦 (都留文科大学)	他 3 名 ⑩
139	バレーボールのゲーム分析と練習の構成					
		21	45	211	栃堀 中二 (東京教育大学)	他 1 名 ⑩
140	バレーボールのゲームに関する一考察 (第 2 報)					
		21	45	218	柏森 康雄 (大阪体育大学)	他 3 名 ⑩
141	バレーボールの分析的研究 (第 6 報) (男子の攻撃パターンとその効果について)					
		21	45	218	深瀬 吉邦 (都留文科大学)	他 2 名 ⑩
142	バレーボールの技術の効果的指導法について (体育方法分科会シンポジウム)					
		21	45	284	宗内 徳行 (日本体育大学)	— ⑩
143	バレーボールゲームにおける技能と体力・精神力との相関					
		24	48	343	西村 清己 (広島大学)	— ⑫
144	バレーボールの授業の比較縦断的研究 — ゲームへの効果的指導法 —					
		25	49	345	大橋 美勝 (岡山大学)	他 1 名 ⑩
145	バレーボールのゲームに関する一考察					
		25	49	348	柏森 康雄 (大阪体育大学)	他 3 名 ⑩
146	バレーボールのゲームに関する一考察					
		25	49	349	大森 敏行 (大阪経済法科大学)	他 3 名 ⑩

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
147	マルコフ過程を利用した6人制バレーボールゲームの記録と分析法						
		25	49	692	深瀬 吉邦 (中央大学)	—	⑩
148	女子バレーボール選手のゲーム技能と性格特性について						
		26	50	220	西村 清己 (広島大福山分校)	他1名	④
149	高校女子バレーボールのチームづくりについて						
		26	50	519	甲田 充彦 (都立大附属高校)	他1名	⑩
150	バレーボールのゲーム分析						
		26	50	521	福原 祐三 (東海大学)	—	⑩
151	バレーボールのゲーム分析 (ルール改正によるゲーム内容の変化について)						
		28	52	526	福原 祐三 (筑波大学)	他2名	⑩
152	スポーツ運動の情報処理に関する研究—バレーボール競技について—						
		28	52	528	斉藤 勝 (東海大学)	他5名	⑩
153	6人制バレーボールのゲーム管理法						
		29	53	491	深瀬 吉邦 (中央大学)	他2名	⑩
154	バレーボールゲームに関する一考察—連続得点と非連続得点						
		29	53	482	柳 宏 (青山学院大学)	他1名	⑩
155	バレーボールのゲーム分析—サーブレシーブからの攻防—						
		30	54	522	福原 祐三 (筑波大学)	他3名	⑩
156	バレーボールのゲーム分析—トリック攻撃、フェイント攻撃に関する一考察—						
		30	54	523	鈴木 和弘 (筑波大学)	他3名	⑩
157	バレーボールのゲーム分析に関する一考察 (第1報)						
		30	54	524	柳 宏 (青山学院大学)	他3名	⑩
158	ブロックルール改正に伴う内容の変化について (その2)						
		30	54	525	木村 正一 (慶応大学)	—	⑩
159	バレーボール技術の評価に関する研究(2)—アシスト得点を基底にした複合的技術成績について—						
		30	54	526	西岡 博仁 (静修短期大学)	—	⑩

(9) 体育社会

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
160	運動部の社会学的考察 (第1報) (注バレー)						
		4	28	20	竹之下休蔵 (東京教育大学)	他1名	③
161	チームワーク論 (注バレー、バスケット)						
		4	28	36	野口 義之 (九州大学)	—	⑩
162	高校運動部の管理及び女子選手生活の調査 (注バレー、ソフト)						
		8	32	38	桑田 一恵 (姫路工業大学)	他2名	③
163	スポーツの試合場面の研究—特に団体競技の体育社会学的考察—						
		10	34	208	辻本 勇 (奈良学芸大学)	他1名	③

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 研究者数 門 分野
164	少年院における体育指導の社会学的研究 (第2報)					
		17	41	39	徳永 幹雄 (九州大学)	他 4 名 ③
165	チームワークの研究—成員関係について—					
		17	41	49	三牧 紘子 (奈良女子大学)	他 1 名 ⑩
166	学校体育における教科内構造の変革と教材研究について—男女共学学習による認識、特にバレーボール教材学習の集団認識の変革過程について—					
		18	42	167	平田 順三 (早稲田大学)	他 6 名 ①
167	地域社会におけるスポーツ活動 (その2) 郡山市における家庭バレーボールの普及と弊害	20	44	35	伏見 士郎 (日本大学)	他 6 名 ③
168	婦人バレーボールの問題点について	20	44	49	辻本 勇 (奈良教育大学)	他 1 名 ③
169	家庭婦人スポーツの現状と問題—全国家庭婦人バレーボール大会の調査から—I 家庭婦人スポーツ活動の社会的基盤	21	45	37	嘉戸 脩 (東京学芸大学)	他 5 名 ③
170	家庭婦人スポーツの現状と問題—全国家庭婦人バレーボール大会の調査から—II 家庭婦人のスポーツ活動に対する考え方	21	45	38	萩原美代子 (文化女子大学)	他 5 名 ③
171	家庭婦人スポーツの現状と問題—全国家庭婦人バレーボール大会の調査から—III 家庭婦人スポーツグループのあり方	21	45	38	大橋 美勝 (東京教育大学)	他 5 名 ③
172	部員が選ぶリーダーの選択条件について (II) (注バレーとワンゲル)	22	46	81	浅井 修 (大阪樟蔭女子大学)	— ③
173	バレーボールのゲームに関する一考察—全日本男子チームの熱狂的ファンを対象に—	23	47	68	金崎 良三 (九州大学)	— ③
174	運動選手と非運動選手の Body Image (注バレー、体操)	23	47	122	藤ヶ谷明男 (順天堂大学)	他 2 名 ③
175	地域社会の体育スポーツ、特に婦人バレーボールの問題点について	23	47	555	辻本 勇 (奈良教育大学)	他 2 名 ③
176	社会体育振興に関する研究 (I) —家庭婦人バレーボール参加者の背景に関する基礎調査—	25	49	170	山中 市衛 (岐阜女子大学)	他 1 名 ③
177	スポーツファンのスポーツに対する関心度の変化について—バレーボールファンを対象に—	26	50	157	金崎 良三 (九州大学)	— ③
178	地域婦人スポーツクラブ活動の存続発展要因—クラブ員の集団余暇活動の分析を中心にして (注婦人バレー)—	26	50	168	今野 守 (日本大学)	他 2 名 ③
179	家庭婦人バレーボールに関する研究、第1報—ママさんバレー参加への個人的環境とチームの運営—	26	50	383	宮田 和信 (京都教育大学)	他 1 名 ⑦
180	地域社会におけるスポーツクラブの比較研究—バスケットボールとバレーボールについて—	27	51	111	大橋 美勝 (岡山大学)	— ③

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専 門 分野
181	スポーツ集団の言語的コミュニケーションに関する研究—バレーボール技術上位集団 の言語的コミュニケーションの組織的分析—						
		27	51	116	横山 一郎 (福井大教育学部)	—	③
182	スポーツ教室のクラブ形成機能—M市家庭婦人スポーツクラブの場合— (注バレー)						
		28	52	129	今野 守 (日本大学大学院)	他 1 名	③
183	運動部生活体験のパーソナリティ変容モメント (その 3) —企業内女子運動部員の場合— (注バレー、陸上)						
		28	52	147	山岸 明郎 (日本大学文理学部)	他 3 名	③
184	学習場面における言語的コミュニケーションと情緒的意味体系について (注バレー)						
		29	53	535	細江 文利 (東京学芸大学)	—	⑩
185	地域スポーツ集団の社会学的研究—集団の存続と変容—						
		30	54	155	中島 豊雄 (名古屋大学)	他 4 名	③

(10) 体育心理

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専 門 分野
186	排球と体操による性格形成の力動的考察						
		2	26	13	鵜野 吾市 (愛知県立西尾高校)	—	④
187	大学バレーボール選手の心理調査の結果について (其の 1)						
		5	29	5	宮野 芳治 (大阪工業大学)	他 5 名	④
188	遊戯集団における成員のうけ入れについて						
		6	30	7	小畑喜美代 (兵庫県立御影高校)	—	④
189	遊戯集団に於ける成員のうけ入れについて						
		7	31	235	小畑喜美代 (奈良女子大学)	—	④
190	高校スポーツ選手の体育管理学的考察、社会心理学的分析 (I) 人間関係について						
		7	31	240	太田 尚充 (青森高校)	—	④
191	体育における学習集団の目標設定と変化過程についての研究						
		10	34	47	山田 知子 (京都府立城南高校)	—	④
192	スポーツ選手の主観的時間に関する実験的研究 (第 5 報) バレーボール選手の主観的時間について						
		10	34	97	五島裕次郎 (神戸大学)	他 1 名	④
193	心身相関に関する諸問題 (4) 人柄と技術指導 (バレーボール選手について)						
		12	36	23	赤池 邦生 (千葉県佐倉高校)	他 7 名	④
194	M. M. P. I. によるバレーボール選手の性格に関する一考察						
		14	38	295	滝沢 英夫 (東京大学)	他 2 名	④
195	M. M. P. I. によるバスケットボール選手の性格に関する一考察 (注バレーとの比較)						
		14	38	296	青井 水月 (東大教養学部)	他 1 名	④
196	スポーツの試合場面における心理的研究 (その 5) —バレーボールにおけるベースについて—						
		14	38	419	辻本 勇 (奈良学芸大学)	他 1 名	④

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
197	スポーツ試合場面の心理的研究 (その10) —いわゆる「にが手」について—	17	41	79	山中 昭生 (奈良女子大附属中学)	他 3 名 ④
198	スポーツ試合場面の心理的研究、そのⅡ—とくに勝敗意識について—	18	42	161	辻本 勇 (奈良教育大学)	他 3 名 ④
199	バレーボール選手の精神変化に関する研究 (内田クレペリン検査による) 第1報	24	48	344	明石 正和 (城西大学)	他 5 名 ④
200	バレーボール選手の精神的変化に関する一考察	26	50	218	明石 正和 (城西大学)	他 4 名 ④
201	女子バレーボール選手の性格特性について (その2) 日本リーグを中心として	26	50	219	山口 清 (城西大学)	他 3 名 ④
202	運動経験が、性格形成におよぼす影響に関する研究 (注バレー部員)	26	50	221	平田 聡 (都立商科短期大学)	他 5 名 ④
203	全国高校男女バレーボール選手の体力と性格について	28	52	486	山口 清 (名城大学)	他 4 名 ④
204	バレーボールの戦績に関与する心理的要因の分析	30	54	527	遠藤 俊郎 (筑波大学)	他 2 名 ⑩

(11) 体育生理

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
205	バレーボールのエネルギー代謝に就て (第2報)	4	28	4	丹羽 正 (神戸大教育学部)	他 1 名 ⑤
206	某電球工場における女子工員の疲労度測定 (注バレーボール)	9	33	99	相生 武夫 (東京工業大学)	他 3 名 ⑤
207	バレーボールのエネルギー需要量について	9	33	118	伊藤 稔 (京都大学)	他 2 名 ⑤
208	スポーツマンの適性について	10	34	177	木村 正一 (慶応大学)	他 1 名 ⑤
209	バレーボールのエネルギー代謝に関する研究	10	34	189	田中 純三 (東京大学)	他 9 名 ⑤
210	バレーボールのエネルギー需要量について (第2報)	10	34	190	石橋 尚美 (大阪府立泉陽高校)	他 4 名 ⑤
211	所謂虚弱児童・生徒の研究 (第5報) 体育実技学習における虚弱生徒のエネルギー代謝率について (特にバレーボール学習を中心に)	12	36	401	中林 秀治 (愛知学芸大学)	— ⑤
212	冬季間のトレーニングについての一考察(1)—バレーボール部員の疲労感について—	13	37	57	阪田 正義 (北海道学芸大岩見沢分校)	— ⑫

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
213	冬季間のトレーニングについての一考察(Ⅱ)—バレーボール部員の疲労感について—	14	38	44	砂田 孝士 (東京農業大学)	他 2 名 ⑤
214	本学バレー部員の体力に関する研究	15	39	41	仲村 要 (同志社大学)	他 6 名 ⑤
215	運動部々員の接地足蹠面積についての研究(2)—女子バレーボール部員—	15	39	157	頭川 徹治 (富山大学)	— ⑤
216	6人制バレーボールにおける運動量(注心拍数、 O_2 など)	21	45	102	砂本 秀義 (東邦大附属駒場高校)	— ⑤
217	足蹠圧測定法による動作発現と呼吸との関係—バレーボール選手の場合—	22	46	267	川岸与志男 (岐阜大学)	他 1 名 ⑥
218	バレーボール選手の体力について (PWC ₁₇₀ から見た、日本、カナダ、バレーボール選手(女子)の体力の比較)	24	48	252	島津 大宣 (日本女子大学)	他 1 名 ⑫
219	中学校授業時における、陸上、体操、バレーボールのR. M. R.について	24	48	480	長沢 弘 (岐阜大学)	— ⑤
220	体育学習における運動量についての一考察(注バレー、バスケット)	26	50	398	大鋸 順 (電気通信大学)	他 4 名 ⑦
221	バレーボール練習時の運動強度実測 $\% \dot{V}O_{2max}$ と算出 $\% \dot{V}O_{2max}$ —	27	51	187	白鳥 金丸 (早稲田大学)	他 4 名 ⑤
222	長期鍛練の運動生理学的研究(特に尿系を中心にして)(注バレー部員)	27	51	207	小野 桂市 (京都工芸繊維大学)	他 1 名 ⑤
223	$\dot{V}O_{2max}$ (Bruce's Multistage Treadmill Test) から見た、Master's Double 2-Step Test 及び Step Test の酸素摂取水準(注バレー選手)	28	52	258	砂本 秀義 (東邦大学)	他 4 名 ⑤
224	スポーツクラブ所属児童生徒の骨年齢と体格・体力	28	52	490	栗本 関夫 (順天堂大学)	他 2 名 ⑧
225	家庭婦人バレーボール選手の一game—時における運動強度	30	54	281	林 喜美子 (和洋女子大学)	他 2 名 ⑤

(12) 保健衛生

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
226	女子バレーボール部員の背柱彎曲に関する研究	18	42	311	清川 誠一 (東京女子体育大学)	他 1 名 ⑧
227	女子スポーツと、頸・肩・腕症候群に関する研究	20	44	184	清川 誠一 (東京女子体育大学)	他 3 名 ⑪
228	某女子体育大学バレーボール部員の健康度について	28	52	223	寺田せつ子 (東海大学公衆衛生)	他 3 名 ⑪

(13) 体格・体型

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
229	女子バレーボール選手の体格とポジション及び球歴との関係					
		9	33	46	森田 茂男 (金沢大学)	— ⑧
230	体育会学生の体型について (そのV) (注バレー部員)					
		15	39	144	米村 昌二 (慶応大学)	— ⑧
231	女子バレーボール選手の手関節機能に関する研究					
		16	40	221	森田 昭子 (東京女子体育大学) 他 2 名	⑧
232	バレーボール選手の手関節機能					
		17	41	133	森田 昭子 (東京女子体育大学) 他 2 名	⑧
233	第24回国民体育大会のチーム種目における、体格と成績に関する分析的研究 — サッカー、バスケット、バレーボール競技について —					
		24	48	415	福田 広夫 (八戸高専)	他 5 名 ⑧
234	運動選手のトレーニングによる体重変化に関する研究 (第 1 報) — 某実業団男子バレーボールチームを対象として —					
		28	52	485	相浦 義郎 (広島修道大学)	他 1 名 ⑫
235	トレーニングによる皮下脂肪の減少					
		30	54	282	永田 隆子 (武庫川女子大学)	他 2 名 ⑤

(14) 体力・運動能力

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
236	スポーツ選手の身体適性に関する研究 (第 1 報) (2)バレーボール選手 (男子) の身体 適性について	11	35	171	中島 昭子 (実践女子学園)	他 2 名 ⑨
237	バレーボール選手の体力 (持久性を中心に)					
		13	37	377	中川 功哉 (東邦大医学部)	他 1 名 ⑫
238	バレーボール選手の体力 (第 1 報) 体力診断テスト結果について —					
		16	40	369	木村 章二 (関西大学)	他 2 名 ⑨
239	バレーボール競技における技術と体力との相関					
		17	41	221	土谷 秀雄 (大阪市立大学)	他 3 名 ⑫
240	バレーボール選手の体力に関する研究 — 日本女子ユニバーシアード代表選手の体力に ついて —	18	42	334	森田 昭子 (東京女子体育大学) 他 4 名	⑫
241	バレーボール選手の体力に関する研究 — 全日本男子選手の体力について —					
		22	46	376	豊田 博 (東京大学)	他 8 名 ⑫
242	バレーボール選手の体力についての研究					
		23	47	325	島津 大宣 (日本女子大学)	他 2 名 ⑫
243	ユニバーシアード・バレーボール女子選手の体力					
		25	49	401	南川 和世 (日本体育大学)	他 2 名 ⑫
244	バレーボール選手の総合評価についての研究					
		27	51	424	島津 大宣 (日本女子大学)	— ⑫

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専 門 分野
245	バレーボール選手に関する体力研究—全国高校選抜選手の体力について—						
		27	51	434	泉川 喬一 (幾徳工業大学)	他 2 名	⑫
246	反復横とび動作の映画解析						
		28	52	350	宮崎 義憲 (東京学芸大学)	他 2 名	⑥
247	バレーボール選手に関する体力研究						
		29	53	420	泉川 喬一 (幾徳工業大学)	他 2 名	⑫

(15) 体格・体力

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専 門 分野
248	陸上競技、排球の選手の形態について						
		6	30	19	高本 友彦 (広島大学)	—	⑧
249	女子スポーツ選手の身体発育及び健康に関する調査						
		9	33	1	久松 明子 (中央大学)	—	⑨
250	スポーツ選手の身体適性に関する研究 (第 1 報) (3)女子バレーボール選手の身体適性について						
		11	35	172	宍戸佐和子 (都立大森高校)	他 1 名	⑨
251	スポーツ選手の身体適性に関する研究 (第 2 報) (3)バレーボール選手 (男・女) の身体適性について						
		12	36	226	中島 昭子 (実践女学園大学)	他 1 名	⑨
252	バレーボール競技者に関する、体力測定項目相互の相関について						
		20	44	196	土谷 秀雄 (大阪市立大学)	他 3 名	⑨
253	バレーボール選手の体力に関する研究—男女ナショナルチーム選手の体力について—						
		20	44	198	豊田 博 (東大教養学部)	他 3 名	⑫
254	バレーボール選手の基礎体力とスパイク速度に関する研究						
		20	44	290	二宮 恒夫 (武庫川女子大学)	他 1 名	⑥
255	バレーボール選手の体力評価に関する研究						
		26	50	501	島津 大宣 (日本女子大学)	他 3 名	⑫
256	バレーボール選手の評価についての研究						
		28	52	471	島津 大宣 (日本女子大学)	—	⑨
257	バレーボール選手に関する体力研究 (第 2 報) 全国高校選抜選手の体力について						
		28	52	492	泉川 喬一 (幾徳工業大学)	他 3 名	⑫

(16) 合 宿

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専 門 分野
258	女子排球部合宿時に於ける疲労調査						
		8	32	75	水間恵美子 (広島女学院大学)	—	⑤
259	運動選手の合宿訓練時における血液性状の変化について (第 1 報) 特に赤血球の変化 (注バレー、ラクビー)						
		9	33	125	池田 嘉代 (姫路短期大学)	他 4 名	⑤

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
260	バレーボールの合宿における選手の機能的変化とコンディションに就いて					
		10	34	144	吉村 恒男 (日本体育大学)	他 5 名 ⑤
261	東京オリンピック、バレーボール強化合宿における自覚疲労について					
		13	37	286	朝比奈一男 (東邦大学医学部)	他 1 名 ⑪
262	東京オリンピック、バレーボール強化合宿における自覚疲労及び睡眠について (Ⅱ)					
		14	38	361	椿 恒城 (東邦大学)	他 1 名 ⑪
263	合宿練習が全身反応時間に及ぼす影響について (注バレー選手)					
		24	48	332	古谷 嘉郎 (東海大学)	他 1 名 ⑤
264	合宿中における運動選手の疲労について (注バレー)					
		26	50	644	武藤 紀久 (岐阜女子短期大学)	— ⑪
265	運動性貧血時における血液性状と有酸素作業能の変化について (注合宿時のバレー選手)					
		29	53	236	辻田 純三 (兵庫医大生理)	他 9 名 ⑤

(17) スキルテスト (評価)

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
266	バレーボールのスキルテストについて					
		10	34	233	豊田 博 (東京大学)	他 3 名 ⑨
267	バレーボールのスキルテストについて (中学生女子)					
		11	35	165	金子 基之 (富山大教育学部)	— ⑨
268	中学校におけるバレーボール指導過程の研究 (Ⅰ)					
		18	42	105	室田 二郎 (大阪市立瑞光中学)	他 1 名 ⑩
269	バレーボールのスキルテストの研究 (Ⅰ)					
		18	42	211	吉野 順 (大阪府立工業高専)	他 2 名 ⑨
270	バレーボールのスキルテストの研究 (2)					
		19	43	204	吉野 順 (大阪府立工業高専)	他 2 名 ⑨
271	球技におけるチームの強弱を決する要因の分析—バレーボールにおけるチームの強弱の予測—					
		21	45	217	中村栄太郎 (京都府立桂高校)	他 1 名 ⑩
272	バレーボール技術の評価に関する研究 (高校女子チームの年間技術成績について)					
		28	52	530	豊田 博 (東京大学教養)	他 2 名 ⑩

(18) ルール

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 専 門 研究者数 分野
273	バレーボール競技規則に於ける国際式と日本式との優劣について					
		3	27	29	山中 良正 (奈良女子大学)	— ⑩
274	Some Investigation the Dynamic Phases of an International-System Volley Ball (6 player system) and a 9 player system Volley Ball.					
		9	33	267	岡野 映子 (帝塚山学院)	他 1 名 ⑩

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
275	我が国のバレーボール競技の将来に関する一考察						
		13	37	174	那須 五男 (学習院大学)	—	⑩
276	レクリエーション・バレーボールのルールの検討—ママさんバレーボール—						
		19	43	329	新堀 道夫 (千葉大学)	—	⑩
277	バレーボールのゲームに関する一考察 (注ルール変遷に伴うゲーム内容の変化)						
		22	46	426	柏森 康雄 (大阪体育大学)	他 4 名	⑩
278	バレーボールのルールや技術の発達と約説的原理						
		23	47	406	高橋 亮三 (順天堂大学)	他 1 名	②
279	ナショナル・ルールが日本のバレーボールに及ぼした影響について						
		27	51	471	木村 正一 (慶応大学)	—	⑩
280	ナショナル・ルールが日本のバレーボールに及ぼした影響について (第 2 報)						
		28	52	531	木村 正一 (慶応大学体育研究所)	—	⑩
281	ブロックのルール改正に伴う内容の変化について (1977改正)						
		29	53	490	木村 正一 (慶応大学)	—	⑩

(19) 審 判

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
282	Volley Ball 審判に関する実態調査						
		9	33	266	吉原 一男 (大阪市立大学)	—	⑩
283	スポーツ試合場面の心理的研究、その四—バレーボールの審判について—						
		13	37	194	辻本 勇 (奈良学芸大学)	他 2 名	④
284	バレーボール審判員の反応時間について						
		21	45	88	鳴川 六司 (大阪外語大学)	他 6 名	⑤

(20) 施設・用具

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
285	体育館設備としての投球板の研究						
		7	31	224	瀬 照男 (兵庫県淡路島津高校)	—	⑦
286	小学校におけるバレーボール競技のネットの高さ及びコートの方さの規定について						
		17	41	223	中島 勝政 (追手門学院大学)	他 4 名	⑩

(21) その他

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 同 研究者数	専門 分野
287	ボールゲームの知識検査について、第 2 報、バレーボール						
		10	34	212	森屋 鷲男 (鹿児島大学)	他 2 名	⑦

No.	表 題	大会	年度	頁	発 表 者 (所属)	共 研究者数	同 専 門 分 野
288	バレーボールの指導に関する研究 (1) ー日本におけるバレーボールの文献についてー						
		17	41	224	清川 勝行 (天理大学)	他 1 名	⑩
289	運動鑑賞価に関する研究ースポーツと舞踊の比較ー (注バレー、ダンス)						
		23	47	137	池田 祐恵 (お茶の水女子大学)	他 1 名	④
290	教科体育におけるバレーボールの指導 (1) 体育教師の文化的把握の仕方について						
		28	52	552	大橋 美勝 (岡山大学)	他 2 名	⑩